





# 皇室とボンボニエール

—その歴史をたどる

会期…平成二十九年七月十五日(土)～九月十日(日)

宮内庁三の丸尚蔵館

## 目次

3	— ごあいさつ
4	— 皇室とボンボニエール — その歴史をたどる
6	— 図版・解説
6	— 一、明治期 — ボンボニエール事始め
10	— 二、大正期 — デザインの展開
24	— 三、大正末期から昭和10年代まで — ボンボニエールのひろがり
50	— 四、昭和20年代から平成へ — 伝統を受け継ぐ
62	— 主な参考文献
64	— Foreword

## 凡例

- 一、本図録は平成二十九年七月十五日(土)～九月十日(日)を会期とする  
展覧会「皇室とボンボニエール — その歴史をたどる」の解説図録で  
ある。
- 一、本展覧会図録に掲載する作品番号は、展示番号と一致する。解説文中  
はNo表記とする。
- 一、会期中、一部の展示替を行う。
- 一、本展覧会で展示する作品のうちNo.1～4、11、20は当庁用度課所管、  
ほかはすべて三の丸尚蔵館の所管である。
- 一、作品のキャプションは原則として、作品番号、作品名、ボンボニエールに  
付された紋章、由緒、寸法、材質、刻印等の順で記した。
- 一、作品の寸法の単位はcmで、原則として縦(奥行き)×横(幅)×高さの  
順で記した。
- 一、作品の名称は、製作当時の記録で確認できたものはそれに準じること  
とし、適宜、当館が付けたものである。
- 一、本展覧会の企画および図録の編集は、当館学芸室主任研究官・五味聖  
が担当し、同主任研究官・岡本隆志が協力した。
- 一、本図録の執筆は五味が担当した。
- 一、本図録掲載の作品の写真は、当館が保管するフィルムおよびデジタル  
画像である。このうちデジタル画像については福島省、佐野順一(株式  
会社インフォマージ)の撮影による。また、概説および解説の挿図写  
真は、当庁総務課、宮内公文書館の協力を得た。

## いしあつちり

明治という新しい時代を迎えて、我が国は近代国家として大きな変革を遂げ、皇室でも諸外国の制度や文化に学び、新たな形で儀式や行事が行われるようになりました。その中で明治二十年代から、饗宴の折の引出物のひとつとして、ボンボニエールと呼ばれる小さな菓子器が採り入れられました。慶びの場にふさわしいデザインによる、手のひらに載るほどの大きさの愛らしい菓子器は、今日まで皇室の御慶事を記念する品として引き継がれています。

当館では平成八年に旧秩父宮家から御遺贈を受けた品々の中に、まとまった数のボンボニエールがあつたことを機に、平成十二年の春、展覧会「慶びの小箱——ボンボニエールの意匠美」を開催し、注目を集めました。その後、平成十七年に御遺贈を受けた旧高松宮家の品々にも多くのボンボニエールが含まれており、これらの調査を重ねたことで、近代の皇室におけるボンボニエールの有様が明らかになりました。

今回の展覧会では、これまでの成果をもとに、御即位や御結婚などの皇室御慶事のほか、外国賓客の接遇など様々な機会に用いられてきたボンボニエールを、その由緒に注目して歴史的にたどります。そして、それぞれの形や文様の意味、製造者や材質などからとらえることができる各時代の特徴についても紹介します。

デザインに工夫を凝らして銀や漆、陶磁などの材質を生かしたボンボニエールの数々にその歴史の深さを感じると同時に、その製作を支えた工芸技術の土壌の豊かさにも心を寄せていただければ幸いです。

平成二十九年七月

宮内庁三の丸尚蔵館

## 宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 出品作品一覧 (第77回 皇室とボンボニエール—その歴史をたどる)

作品番号	作品名	作者名	員数	時代	ページ
1	円形鶴亀文		一点	明治27年(1894)	p. 8
2	楕円形鶴亀文		一点	明治27年(1894)	p. 8
3	柳箱形		一点	明治41年(1908)	p. 9
4	色紙文庫形		一点	明治42年(1909)	p. 9
5	重箱形松鶴文		一点	明治43年(1910)	p. 9
6	入目籠形		一点	大正4年(1915)	p. 11
7	柏葉箱形		一点	大正4年(1915)	p. 11
8	八稜鏡箱形		一点	大正4年(1915)	p. 11
9	木瓜形鴛鴦文		一点	大正5年(1916)	p. 12
10	八咫鏡形		一点	大正5年(1916)	p. 12
11	重硯箱形松鶴文		一点	大正4年(1915)	p. 12
12	亀甲形		一点	大正4年頃(1915頃)	p. 12
13	八稜鏡形雲鶴文		一点	大正8年(1919)	p. 13
14	丸形松喰鶴文		一点	大正8年(1919)	p. 13
15	碁盤形		一点	大正8年(1919)	p. 13
16	文庫形波文		一点	大正10年(1921)	p. 14
17	文庫形波文		一点	大正10年(1921)	p. 14
18	地球形		一点	大正10年(1921)	p. 14
19	印籠形		一点	大正11年(1922)	p. 15
20	楕円形		一点	大正11年(1922)	p. 15
21	亀甲形 松飾付		一点	大正13年(1924)	p. 16
22	亀甲形 松飾付		一点	大正13年(1924)	p. 16
23	文庫形雲形文		一点	大正13年(1924)	p. 17
24	卵形亀甲文		一点	大正13年(1924)	p. 17
25	うさぎ置物形		一点	大正13年(1924)	p. 17
26	手箱形雲鶴文		一点	大正11年(1922)	p. 18
27	文庫形若松文(大)		一点	大正11年(1922)	p. 18
28	文庫形若松文(小)		一点	大正11年(1922)	p. 18
29	文庫形梅花散文		一点	大正14年(1925)	p. 18
30	丸形梅花散文		一点	大正14年(1925)	p. 18

31	双鶴置物		一点	大正14年（1925）	p. 19
32	菊花形鳳凰文		一点	大正14年（1925）	p. 19
33	諫鼓形		一点	大正～昭和初期（1910～30年代）	p. 20
34	伏鳥籠形		一点	大正～昭和初期（1910～30年代）	p. 20
35	角鳥籠形		一点	大正～昭和初期（1910～30年代）	p. 21
36	丸鳥籠形		一点	大正～昭和初期（1910～30年代）	p. 21
37	冑形		一点	大正～昭和初期（1910～30年代）	p. 21
38	駕籠形		一点	大正～昭和初期（1910～30年代）	p. 22
39	御所車形		一点	大正～昭和初期（1910～30年代）	p. 22
40	和船形		一点	大正～昭和初期（1910～30年代）	p. 22
41	御座船形		一点	大正～昭和初期（1910～30年代）	p. 23
42	小槌形		一点	大正～昭和初期（1910～30年代）	p. 23
43	文庫形唐草文		一点	大正～昭和初期（1910～30年代）	p. 23
44	食籠形		一点	昭和2年（1927）	p. 24
45	鼓形若松星文		一点	昭和3年（1928）	p. 25
46	箱形燕葵文		一点	昭和3年（1928）	p. 25
47	菱形若松に菊文		一点	昭和3年（1928）	p. 25
48	大太鼓形		一点	昭和3年（1928）	p. 26
49	灯籠形		一点	昭和3年（1928）	p. 26
50	棒形		一点	昭和3年（1928）	p. 27
51	舞楽兜形		一点	昭和3年（1928）	p. 27
52	木瓜形若松文		一点	昭和3年（1928）	p. 28
53	櫃形田子の浦文		一点	昭和4年（1929）	p. 28
54	文庫形日英国旗付		一点	昭和4年（1929）	p. 28
55	太鼓形		一点	昭和5年（1930）	p. 29
56	洲浜形		一点	昭和5年（1930）	p. 29
57	櫃形月に波文		一点	昭和5年（1930）	p. 29
58	丸形王冠にイニシャル入		一点	昭和5年（1930）	p. 30
59	丸形紋章付		一点	昭和5年（1930）	p. 30
60	地球儀形		一点	昭和6年（1931）	p. 30
61	和書形		一点	大正14年（1925）	p. 31
62	梅花形		一点	昭和4年（1929）	p. 31

63	卷子形		一点	昭和4年 (1929)	p. 31
64	菊花形		一点	昭和9年 (1934)	p. 31
65	文箱形弓に巻物文		一点	昭和6年 (1931)	p. 32
66	扇形菊桜文		一点	昭和10年 (1935)	p. 32
67	でんでん太鼓形		一点	昭和10年 (1935)	p. 32
68	舞楽兜形		一点	昭和9年 (1934)	p. 33
69	犬張子形		一点	昭和9年 (1934)	p. 33
70	文箱形鳥居文		一点	昭和9年 (1934)	p. 33
71	手鏡形すみれ文		一点	昭和5年 (1930)	p. 34
72	背囊形		一点	昭和9年 (1934)	p. 34
73	手箱形桜に蘭文		一点	昭和9年 (1934)	p. 35
74	宝船形		一点	昭和10年 (1935)	p. 35
75	小槌形鳳凰文		一点	昭和10年 (1935)	p. 35
76	冠形		一点	昭和10年 (1935)	p. 36
77	手箱形鳥居文		一点	昭和10年 (1935)	p. 36
78	提灯形寿字三笠山杉文		一点	昭和11年 (1936)	p. 36
79	木瓜形桐文		一点	昭和16年 (1941)	p. 37
80	扇形三笠山に若杉桐文		一点	昭和16年 (1941)	p. 37
81	巢籠鶴形		一点	昭和19年 (1944)	p. 37
82	雪輪形菊に勾玉文		一点	昭和5年 (1930)	p. 38
83	砲弾形		一点	昭和6年 (1931)	p. 38
84	貝桶形流水菊花葵文		一点	昭和10年 (1935)	p. 38
85	八稜鏡形勾玉に紅梅文		一点	昭和10年 (1935)	p. 38
86	卵形弓に菊文		一点	昭和8年 (1933)	p. 39
87	桃形		一点	昭和9年 (1934)	p. 39
88	重扇形竹文		一点	昭和10年 (1935)	p. 39
89	羽子板形桐桃文		一点	昭和10年 (1935)	p. 39
90	入隅箱形牡丹に太刀文 (黒)		一点	昭和16年 (1941)	p. 40
91	入隅箱形牡丹に太刀文 (朱)		一点	昭和16年 (1941)	p. 40
92	櫃形		一点	昭和16年 (1941)	p. 40
93	手箱形松文		一点	昭和11年 (1936)	p. 41
94	手箱形松梅文		一点	昭和18年 (1943)	p. 41

95	丸形梅枝文		一点	昭和18年（1943）	p. 41
96	丸形梅唐草文		一点	昭和18年（1943）	p. 41
97	重扇形松竹梅文		一点	大正14年（1925）	p. 42
98	洋書形		一点	昭和5年（1930）	p. 42
99	箱形		一点	昭和12年（1937）	p. 42
100	手箱形若松文		一点	昭和14年（1939）	p. 42
101	和書形		一点	大正14年（1925）	p. 43
102	重扇形松竹梅文		一点	昭和3年（1928）	p. 43
103	丸形蔓草波文		一点	昭和8年（1933）	p. 43
104	扇形松竹梅文		一点	昭和11年（1936）	p. 43
105	竹形		一点	大正14年（1925）	p. 44
106	丸形含綬鳥文		一点	昭和3年（1928）	p. 44
107	台付箱形桐文		一点	昭和3年（1928）	p. 44
108	八稜鏡形鳳凰文		一点	昭和9年（1934）	p. 44
109	竹筒形		一点	昭和4年（1929）	p. 45
110	竹形		一点	昭和9年（1934）	p. 45
111	檜扇形藤桜文		一点	昭和9年（1934）	p. 45
112	箱形モノグラム入		一点	昭和9年（1934）	p. 46
113	馬蹄形松巴文		一点	昭和9年（1934）	p. 46
114	亀甲形松喰鶴文		一点	昭和9年（1934）	p. 46
115	飛行機形		一点	昭和7年（1932）	p. 47
116	鉄帽形		一点	昭和7年（1932）	p. 47
117	戦車形		一点	昭和8年（1933）	p. 47
118	キャビネット形		一点	昭和6年（1931）	p. 48
119	台付文庫形		一点	昭和6年（1931）	p. 48
120	六角櫃形岩に杜若文		一点	昭和13年（1938）	p. 48
121	手箱形松文		一点	昭和13年（1938）	p. 48
122	水雷形		一点	昭和10年（1935）	p. 49
123	手箱形藤文		一点	昭和16年（1941）	p. 49
124	丸形藤文		一点	昭和16年（1941）	p. 49
125	亀甲形折鶴文		一点	昭和25年（1950）	p. 50
126	重ね箱形松鶴文		一点	昭和24年（1949）	p. 51

127	丸形鴛鴦文		一点	昭和27年 (1952)	p. 51
128	丸形黄心樹文		一点	昭和30年 (1955)	p. 51
129	菊花形双鶴付		一点	昭和34年 (1959)	p. 52
130	丸形鴛鴦文		一点	昭和34年 (1959)	p. 52
131	丸形石楠花文		一点	昭和39年 (1964)	p. 52
132	丸形黄心樹文		一点	昭和39年 (1964)	p. 52
133	菊花形双鶴梅撫子文		一点	昭和30年 (1955)	p. 53
134	菊花形双鶴若杉桐文		一点	昭和41年 (1966)	p. 53
135	丸形雉文		一点	昭和36年 (1961)	p. 53
136	丸形瑞鳥文		一点	昭和43年 (1968)	p. 53
137	碁盤形		一点	昭和39年 (1964)	p. 54
138	扇形梅文		一点	昭和45年 (1970)	p. 54
139	花形未草文		一点	昭和48年 (1973)	p. 54
140	扇形梓文		一点	昭和55年 (1980)	p. 55
141	丸形梅文		一点	昭和60年 (1985)	p. 55
142	扇形未草文		一点	平成2年 (1990)	p. 55
143	丸形西欧地囷入		一点	昭和46年 (1971)	p. 56
144	丸形北米地囷入		一点	昭和50年 (1975)	p. 56
145	丸形竹文		一点	昭和46年 (1971)	p. 56
146	丸形桃枝文		一点	昭和48年 (1973)	p. 56
147	丸形若竹桃文		一点	昭和49年 (1974)	p. 57
148	丸形御紋付		一点	昭和51年 (1976)	p. 57
149	丸形竹に鳩文		一点	昭和56年 (1981)	p. 57
150	丸形桃文		一点	昭和58年 (1983)	p. 57
151	丸形若梅に撫子文		一点	昭和55年 (1980)	p. 58
152	丸形雲柏に桃花文		一点	昭和55年 (1980)	p. 58
153	菊花形		一点	昭和61年 (1986)	p. 58
154	丸形柊に扇文		一点	昭和59年 (1984)	p. 58
155	丸形桜に榮印		一点	昭和59年 (1984)	p. 59
156	丸形若杉に桐文		一点	平成3年 (1991)	p. 59
157	丸形若杉に桐文		一点	平成3年 (1991)	p. 59
158	丸形鳳凰文		一点	平成2年 (1990)	p. 60

159	丸形鴛鴦文		一点	平成3年 (1991)	p. 60
160	地球形		一点	平成3年 (1991)	p. 60
161	丸形榎扇菖蒲文		一点	平成2年 (1990)	p. 60
162	丸形松鶴文		一点	平成5年 (1993)	p. 61
163	丸形鴛鴦文		一点	平成5年 (1993)	p. 61
164	八稜鏡形桐文		一点	平成16年 (2004)	p. 61
165	八稜鏡形白樺文		一点	平成16年 (2004)	p. 61

## 皇室とボンボニエール——その歴史をたどる

ボンボニエールとは、砂糖菓子を入れる蓋付き容器のことを意味するフランス語、bonbonniereが語源である。日本の皇室では、明治二十年以降、大札や御結婚などの御慶事の折に催される饗宴において、掌におさまるほどの小さな容器に金平糖などのお菓子を入れて、記念の品、いわば引出物として饗宴の出席者に賜ることが慣わしとなっており、それは平成の今日まで、皇室の伝統として引き継がれている。この小さなお菓子入れについて、明治期の記録をみると「御菓子器」「銀製御菓子器」等と記される中で、明治三十三年（一九〇〇）にはすでに「ボンボンニエール」、明治四十四年には「ボンボンニエール」と記された例が見え、これ以降、大正、昭和期にはボンボニエール、ボンボンニエールなど、さまざまに表記されている。そして、平成三年（一九九二）に秩父宮勢津子妃の御著書『銀のボンボニエール』（主婦の友社）が出版されてこの言葉が広く知られるようになり、現在では、ボンボニエールは皇室の御慶事を記念する菓子器を表す言葉として親しまれている。

この皇室ゆかりのボンボニエールには、明治期より、蓋表などに紋章が表された例が多い。この紋章はボンボニエールが用いられた饗宴の主催者を示している。この紋章が、天皇家の紋章である菊花御紋章（十六葉八重表菊形、以下、本展では御紋とする）であれば、天皇皇后、あるいは皇太后、皇太子が催された饗宴の折のものであることを示しており、また各宮家の紋章やそれに繋がる各家の紋章が、その宴席の主催者を示している。そして、宮家の紋章とは別に、親王、親王妃、内親王、王、王妃、女王の紋章である、裏菊の菊花御紋章（十四葉一重裏菊形、以下、本展では裏菊御紋とする）が用いられた例があることが知られる。この他、皇族方が身の回りのものに付けられる文字や花のシンボルマーク、いわゆるお印がデザインに採り入れられることも多く、それらはボンボニエールの由緒を知る重要な情報でもある。そして昭和初期には、皇室に倣って、華族の各家での結婚披露宴や首相官邸での饗宴においてもボンボニエールが記念の品として用いられていた例が見出され、ボンボニエールの使用の範囲は広がりを見せていたことが知られる。

さて、今回の展覧会で紹介する当館所蔵のボンボニエールの数々は、平成八年と同十七年に、それぞれその歴史を閉じられた旧秩父宮家と旧高松宮家から

御遺贈を受けた美術品の中に含まれていたものである。ここではこの両宮家とそのボンボニエールの概要について紹介しておきたい。

秩父宮家は、大正天皇と貞明皇后の第二皇男子である雍仁親王が、成年式を迎えられた大正十一年（一九二二）六月二十五日に創立された宮家である。雍仁親王は明治三十五年六月二十五日にご誕生、間もなくして、一つ年上の兄宮、裕仁親王（後の昭和天皇）とともに川村伯爵家に預けられた。明治三十八年一月三日に弟宮である宣仁親王がご誕生された後は、東宮御所の隣に設置された皇子御殿においてご兄弟ともに一緒に過ごされた。明治四十二年には学習院初等科へご入学、大正四年に同中等科へ進まれた。大正六年には陸軍中央幼年学校予科にご入学され、その後、同本科、陸軍士官学校、陸軍大学校へと進まれ、陸軍での任務に就かれた。大正十四年五月からは、英国に留学され見聞を広げられたが、その留学中の大正十五年十二月二十五日に大正天皇が崩御されたことにより、年明けの一月十七日にご帰国、その後は昭和天皇を補佐する皇位継承第一位のお立場となられた。昭和三年九月二十八日に松平勢津子様と御結婚され、昭和十二年には英国国王ジョージ六世戴冠式に昭和天皇のご名代として出席されるなど、皇族としてのご活動、陸軍でのご勤務と忙しい日々を過ごされた。しかし、昭和十五年に結核をご発病、翌年から御殿場の御別邸にて療養生活に入られ、昭和二十八年一月四日に五十歳で薨去された。

勢津子妃は外交官松平恒雄の長女として明治四十二年九月九日に英国にてご誕生された。その後は父の転勤にともない、中国、米国と外国での生活を長く送られている。昭和三年にワシントンのフレンドスクールをご卒業、ご帰国後に雍仁親王と御結婚、戦後は日英協会、日本瑞典協会の名誉総裁を務められ、国際親善のため外国御訪問を重ねられている。平成七年八月二十五日に八十五歳で薨去された。

当館に引き継がれた秩父宮家旧蔵の主な美術品については、平成十六年の展覧会「若松と菊——旧秩父宮家いくしみの品々」においてまとめて紹介した。秩父宮邸は昭和二十年五月に戦災に遭い、ボンボニエールの一部は宮邸とともに焼失したと考えられ、蔵に保管されていたことで被災を免れたものが今日まで伝えられてきた。なお、旧秩父宮家所蔵のボンボニエールは当館のほか、一部が御殿場御別邸、現在の秩父宮記念公園に所蔵されている。

一方、高松宮家は、大正天皇と貞明皇后の第三皇男子である宣仁親王が、大正二年七月六日に大正天皇より「高松宮」の称号を賜り、創立された宮家である。御年八歳での宮家創立は、有栖川宮家第十代当主である威仁親王の薨去により、有栖川宮家が絶家となることを憂慮された大正天皇が、宣仁親王にその

祭祀継承を託されたことによる。宣仁親王は大正九年に学習院中等科をご卒業、江田島海軍兵学校へご入学され、大正十四年一月十三日に成年式を迎えられた。その後、海軍水雷学校、海軍砲術学校で学び、海軍での任務につかれた。昭和五年二月四日に徳川喜久子様と御結婚、まもなく昭和天皇のご名代として英国、スペイン国御差遣にともない、両殿下お二人にて、十四ヶ月にわたり欧米各国を御訪問された。戦後は国際親善、厚生、文化、スポーツの発展に尽くされ、数々の団体や組織の総裁を務められている。昭和六十二年二月三日に八十二歳で薨去された。

喜久子妃は明治四十四年十二月二十六日に公爵徳川慶久の第二女子としてご誕生された。御母は有栖川宮威仁親王の第二女子實枝子である。昭和四年三月に女子学習院をご卒業、翌年に宣仁親王と御結婚された。戦後は様々なご

活動に取り組みましたが、特にがん撲滅のために昭和四十三年に財団法人高松宮妃癌研究基金を設立され、名誉総裁として、がん研究を奨励された。平成十六年十二月十八日、九十二歳で薨去された。

この高松宮家旧蔵の美術品について、当館では平成二十五年の展覧会「若梅に撫子―旧高松宮家と伝来の品々」にて紹介している。また、高松宮家が所蔵されていたボンボニエールは、他に大阪青山大学の付属施設である大阪青山歴史文学博物館にも伝えられている。

なお、当館が所蔵する旧秩父宮家のボンボニエールはおよそ一七〇点、旧高松宮家のおよそ二四五点、両宮家のを合わせてデザインで分類すると二二六種が認められる。旧秩父宮家のボンボニエールは、明治四十年代から昭和四十年代までのもの、一方の旧高松宮家のは昭和初期から平成までとその年代に特色がある。これらの両宮家に伝えられたボンボニエールは全て、秩父宮両殿下、高松宮両殿下のご活動と人々との交流を通じて自然と集積された品々である。両宮家において、ボンボニエールを記念の品としてひとつひとつをととても大切にされていたことは、宮邸の応接室の飾り棚等に置かれていた様子や、丁寧に整理と保管がなされてきた作品の状態からも知られよう。

当館では平成十二年に展覧会「慶びの小箱―ボンボニエールの意匠美」を開催したが、この時に紹介した一四五点のボンボニエールは、旧秩父宮家から当館が御遺贈を受けたボンボニエールを中心に、当庁用度課保管のもの併せ、そのデザインに注目して選び紹介したものであった。旧秩父宮家のコレクションには、由緒が付されていないものが多数あり、年代などを明確にできない部分が多いまま紹介したが、この展覧会をきっかけに、ボンボニエールが広く知られ、個人コレクションを紹介する書籍や美術館等での展示も行われてきた。

前回の展覧会から十七年を経て再びボンボニエールを一堂に紹介する本展では、両宮家旧蔵のボンボニエールのその由緒に焦点を当てて、明治二十年代のボンボニエールの始まりから平成にいたるまで、その歴史をたどることを試みた。本展が実現した背景には、旧高松宮家のコレクションのほとんどに、宮家に収蔵された当時、その由緒を記した紙片を中に納め、そのままに今日まで伝えられていたことが大きい。小さな紙片に記された内容と、皇族方の御事績をまとめた実録や実記の記述とを重ね合わせると、高松宮両殿下と国内外の多くの方々との交流の様子、ボンボニエールのデザインに込められた願いや慶びがいきいきと伝わってくる。本展で紹介するこれらの小さな記念の菓子器を通じて、ボンボニエールをめぐる人々の記憶と想いに触れて頂く機会となれば幸いである。

(当館学芸室主任研究官／五味 聖)

昭和14年(1939)10月22日秩父宮邸(表町御殿)にて  
前列向かって左より秩父宮妃勢津子、貞明皇后、高松宮妃喜久子、  
後列向かって左より秩父宮雍仁親王、高松宮宣仁親王、三笠宮崇仁親王

# 一、明治期——ボンボニエール事始め

The Meiji Era — The Beginning of Bonbonnières

皇室においてボンボニエールが記念の品として用いられたその始まりは、ヨーロッパ王室に倣ったものなのか、日本で独自に考え出されたものなのか、未だに

明確にできない部分が多い。明治期初頭に外国賓客の饗応に西洋料理が取り入れられ、欧米各国の儀礼を学び、次第に日本の外交儀礼が近代化していくなかで、西洋式の饗宴と結びついてボンボニエールが用いられたのだろうと推察される。また、明治初期から十年代にかけて皇族方がヨーロッパに留学、各国を訪問される中で、細工を凝らした美しい菓子器とそこに盛りられた色とりどりの菓子による饗応を体験されたことが想像される。そして日本においては、慶事の折に引出物を特別に用意するという慣わしは、古くより行われてきたことである。さらにこの頃、細工が凝らされた日本の工芸品は、ヨーロッパで流行したジャポニスムを背景に、重要な輸出品目のひとつでもあった。香取秀真の『続金工史談義』（桜書房、昭和十八年）には、明治初期に「ヤンポと称する箱形蓋物の輸出盛なり」と記されている。ヤンポとは、オランダ語のjam pot（ジャム入れ）が語源ではないかと考えられ、鍍起による蓋物容器という点で、その姿はボンボニエールに重なる。また、皇室のボンボニエールはその初期から銀製のものが多い。この日本の銀細工を支えた背景として、江戸時代以来、銀製のミニチュアを愛しむ文化が引き継がれていたことに加え、当時の貨幣は事実上の銀本位制であり、銀には現在よりもはるかに高い価値があったことが挙げられよう。このように、幾つかの要因が重なりあい、皇室のボンボニエールが登場したと考え

られる。その舞台となったのは、明治二十一年（一八八八）十月に竣工した明治宮殿である。

これまで、記録や実作品から確認できるボンボニエールが最初に用いられた饗宴は、明治二十七年に行われた明治天皇の大婚二十五年（御結婚二十五年、銀婚式）の祝典とされてきたが、その初見は宮殿竣工後に初めて催された国家的行事、明治二十二年二月十一日の憲法発布式にまで遡る。この憲法発布式が執り行われた当日の夜に明治天皇が催された「大宴会」において、記念の菓子器が用いられたことが記録に見出される。この饗宴は明治宮殿の豊明殿、南溜の間、北溜の間、内閣の四室が会場とされ、これに陪席した人々は総勢三五〇名あまり、当日の様子を記した「日記」（『憲法発布式録一』明治二十二年、宮内公文書館所蔵、識別番号824-2）には、「食畢テ茶ヲ賜フ 菓ヲ盛ルニ銀筐綵囊ヲ以テシ皆二千五百四十九年紀元節ノ文ヲ彫繕セリ 盛典ヲ記スルナリ」と記される。これによれば、食後の

お茶の折に、記念の菓子器として銀製の箱と絹織物による囊物が配られ、これらには彫刻と刺繍で年紀が入れられているという。残念ながら、この時に用いられたものは宮内庁には伝えられていない。銀製の箱については、これに相当すると考えられるものが個人蔵に散見され、これまでに

五種を確認している。その形や装飾はそれぞれ異なり、いずれも手のひらに載るほどの大きさで、御紋と「二五四九紀元節」の年紀が入れられている。特定のデザインではなく、同一の年紀を入れた様々な種類のものが用意されたのだろう。その数については、明治三十三年の皇太子（大正天皇）御結婚の折に前例を調査した記録に記されている。その記録「菓子器調整員数書」（『用度録』慶事二、第三十五号雑書のうち、明治三十三年、宮内公文書館所蔵、識別番号824-2）には、明治二十二年の憲法発布式と明治二十七年の大婚二十五年の二つの例が挙げられており、「憲法発布式之節 千四百個」とある。憲法発布式の当日は、晚餐に続いて明治宮殿正殿での舞楽、さらには立食の宴が九〇〇余名の陪席のもとに催された。また、同日に浜離宮延遠館においても宴席が設けられており、記念の品としてこの多くの出席者に下賜されたであろうことが、用意された数から

挿図1 「銀製御菓子器」『用度録』慶事二、明治27年、宮内公文書館所蔵、識別番号824-2より

推察される。この憲法発布式における菓子器が、現在のところ、皇室におけるボンボニエールの始まりとみられ、晩餐と舞楽陪覧、そして立食の宴というスタイルで催された、明治宮殿での初めての大きかりな饗宴において、ボンボニエールが用いられたことがわかる。

そして、明治二十七年三月九日に行われた明治天皇の大婚二十五年の祝典において、初めて、特定のデザインによるボンボニエールがまとまって用意されている。この時、製作されたのは銀製のもの三種で、いずれにも御紋は表されず、祝典の年紀が刻まれている(挿図1および8頁参照)。この後、明治三十三年には皇太子御結婚、さらに四十年代から大正初期にかけて四方の内親王の御結婚が続くが、これらの御慶事では、蓋表に御紋を表した、それぞれ特定のデザインのボンボニエールが用意されている。また、このような公的な宮中饗宴とは別に、私的な御内宴においても、ボンボニエールが様々に用いられるようになる。

その例として明治三十三年の皇太子御結婚に際してのボンボニエールを見てみよう。まず、御婚儀が行われた五月十日の夕刻の宮中饗宴では、銀製で蓋付き

の折櫃をかたどったものが用いられた。当時の仕様に添付された図面では、蓋表に御紋を配し、側面には若松に鶴を彫り、赤色の絹の打紐が付けられている(挿図2)。この饗宴には明治宮殿の千種の間、豊明殿、東溜の間に、合わせて二〇〇〇人あまりが出席しており、ボンボニエールも二二〇〇個を超える数が製作されている。これらのボンボニエールには大膳職で「ドラゼーアンザンテー」(フランス菓子 *dragée enchanter* のこと)等を入れ、「御車寄並二東車寄ノ両所へ分置シ各員退出ノ節下賜ス」と記される。このように大規模な立食の宴席の場合、宮殿から退出する際に係員から出席者にそれぞれ手渡されていたのである。この時のボンボニエールのデザインは、製作を請け負った美術商が提案したものと考えられるが、宮内省でこの準備を担当した調度局は、明治期を代表する図案家、岸光景(一八四〇〜一九二二)にそのデザインについて意見を求めている。それに対する岸の回答として「形状

よし」「模様鶴に松よし」「足を今少し高くし角とを少し丸める事」「鶴の数は奇数の方」と簡条書きに記される(「用度録」慶事二、第三十五号雑書のうち、明治三十三年、宮内公文書館所蔵、識別番号8888)。

挿図2 菓子器絵図「第一号」『皇太子殿下御婚儀書類』明治32・33年、宮内公文書館所蔵、識別番号71692より

この宮中饗宴の後、五月十七日には千種の間で御内宴(午餐)が催され、全く別のボンボニエールが使われている。この午餐には、天皇皇后、皇族方を始め、宮内大臣ほか宮内高等官合わせて総勢二十七名が出席し、一つのテーブルを親しく囲む形式で行われた。この時に使用されたボンボニエールは記録によれば「ボンボンニー 銀器漆器取交」とあり、その内訳は「銀製虫籠形七個、銀製行灯形十一個、蒔絵文庫形三個、蒔絵帆貝形一個、銀製鳥籠形四個、黒塗蒔絵双六盤形一個」の六種二十七点である。これらのボンボ



挿図3 《亀置物形》 当館蔵

ニエールが実際にはどのような形で大きさのものかは不明だが、後の大正期に製作された鳥籠形のように複雑な形で意匠の凝らされていたことが想像される。これらのボンボニエールは、いずれも日本橋に店舗を構え、銀器や漆器、小間物などを取り扱う美術商、小筆善太夫と宮川長右衛門によって納品されたものである。

また、御内宴のもう一つの例として明治四十四年十月十日の東宮御所における皇太子妃(貞明皇后)のお風邪平癒のお祝いがある。当時満十歳の裕仁親王(昭和天皇)は、ご両親の皇太子同妃、弟君の雍仁親王、宣仁親王、叔母君の聰子内親王とご会食になった。フランス料理が饗されたこの宴の最後には、記念品として「亀置物形銀製ボンボニエール」を拝領されている(「日記」東宮職、明治四十四年、宮内公文書館蔵、識別番号8888)。なお、この時のものと思われるボンボニエールが、秩父宮家旧蔵品に含まれている(挿図3)。このように、明治四十年代には、ボンボニエールが皇室の様々な饗宴に欠かせないものとなっていたことがわかる。

## 明治二十七年大婚二十五年

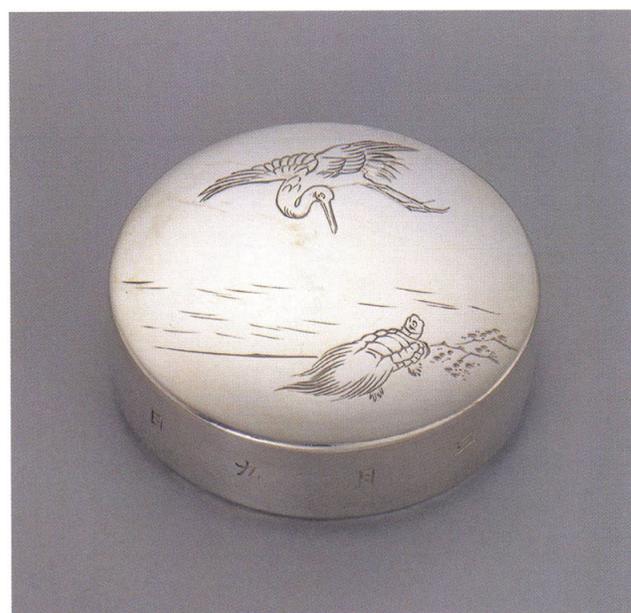
明治二十七年三月九日に催された明治天皇の大婚二十五年度の饗宴では全三種のボンボニエールが製作されている。当日の明治宮殿・豊明殿での饗宴に出席した六二〇余名には鶴形のもものが下賜された（6頁挿図1）。その後、舞楽の陪覧があり、この舞楽の後に、竹の間および豊明殿で立食の賜宴が催され、その出席者二〇〇余名に《円形鶴亀文》No.1と《楕円形鶴亀文》No.2が下賜されている。また、鶴形は八二〇個、円形と楕円形は合わせて一八五〇個が製作されており、当日の欠席者にも後日に配られたことが記録されている。この三件のボンボニエールに御紋はなく、容器の側面に「明治二十七年三月九日」と刻まれ、中に入れられていた菓子は「五色豆の如き」と伝えられている。鶴形のもものは美術商の小筆善太夫、円形と楕円形のもものは同じく宮川長右衛門がこの製作を担当した。

「銀製御菓子器」  
『用度録』慶事二、明治27年、宮内公文書館所蔵、識別番号824-2より



2 楕円形鶴亀文  
明治27年3月9日、明治天皇御結婚25年祝典饗宴  
5.7 × 4.6 × 1.6  
銀製、刻銘「明治二十七年三月九日」

Oval Shape with Crane and Turtle Design  
Banquet celebrating the 25th wedding anniversary of Emperor Meiji  
silver / 1894



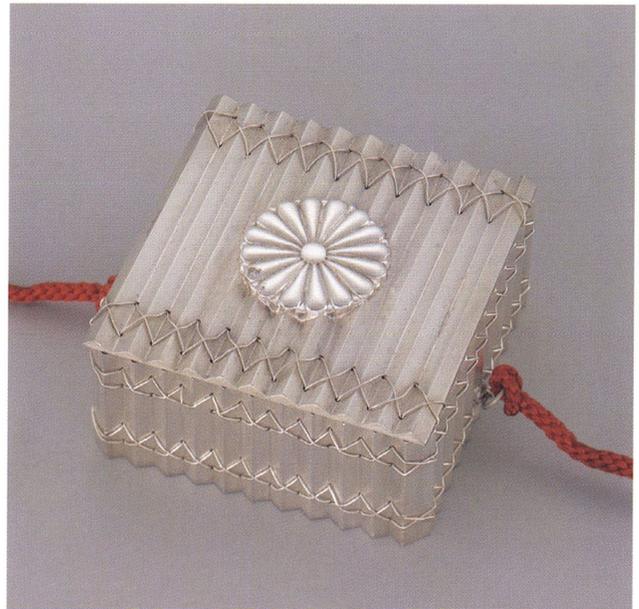
1 円形鶴亀文  
明治27年3月9日、明治天皇御結婚25年祝典饗宴  
径5.2 高1.8  
銀製、刻銘「明治二十七年三月九日」

Round Shape with Crane and Turtle Design  
Banquet celebrating the 25th wedding anniversary of Emperor Meiji  
silver / 1894



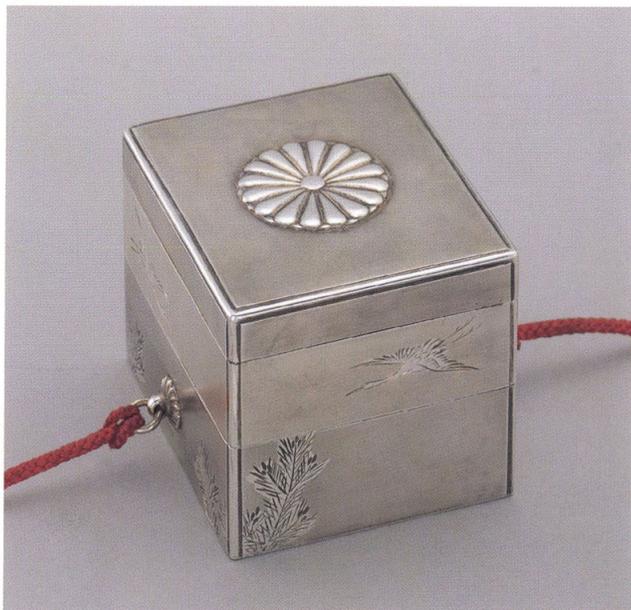
4 色紙文庫形 [御紋]  
 明治42年4月29日、房子内親王・北白川宮成久王御結婚祝宴  
 5.8 × 4.9 × 2.5  
 銀製

Shape of a Box for *Shikishi* (poetry cards)  
 Banquet celebrating the marriage of Princess Fusako and Prince Naruhisa (Prince Kitashirakawa)  
 silver / 1909



3 柳箱形 [御紋]  
 明治41年4月30日、昌子内親王・竹田宮恒久王御結婚祝宴  
 5.1 × 5.2 × 2.6  
 銀製

Shape of a Wicker Box  
 Banquet celebrating the marriage of Princess Masako and Prince Tsunehisa (Prince Takeda)  
 silver / 1908



5 重箱形松鶴文 [御紋]  
 明治43年5月6日、允子内親王・朝香宮鳩彦王御結婚祝宴  
 4.9 × 4.2 × 4.1  
 銀製

Shape of Stacked Boxes with Crane and Pine Design  
 Banquet celebrating the marriage of Princess Nobuko and Prince Yasuhiko (Prince Asaka)  
 silver / 1910

## 内親王方の御結婚

明治四十一年には明治天皇第六皇女子である昌子内親王、翌四十二年には同第七皇女子の房子内親王、さらに翌四十三年には同第八皇女子の允子内親王の御結婚が続き、大正四年には同第九皇女子の聰子内親王が御結婚された。いずれも蓋表に比較的大きな御紋を表し、伝統的な調度にみえる箱形の容器をデザインしたボンボニエールが御婚儀当日の宮中饗宴で用いられた。これらの特徴は、明治三十三年の皇太子御結婚のボンボニエール（7頁挿図2）と共通している。また当館には伝えられていないが、御内宴で用いられたと考えられる別のボンボニエールが幾つか用意されている。たとえば明治四十二年の房子内親王と北白川宮成久王との御結婚に際しては、宮中饗宴に用いられた《色紙文庫形》No.4が六五八個用意された他に、裏菊御紋付の貝桶形のもの二〇〇個、御紋付で帙文庫形のもの一〇〇個が製作されている。製作を請け負った美術商には、宮川長治郎、小筆英茂の名前が見える（『用度録』慶事一〜三、調度寮、明治四十二年、宮内公文書館所蔵、識別番号839-5-7）。

# 二、大正期——デザインの展開

The Taisho Era — The Development of Designs

大正期には即位の礼や立太子礼、皇太子成年式と、皇室における重要な儀式に際してのボンボニエールがそれぞれ初めて用意された。大正天皇の即位の礼は、大正四年十一月十日に京都御所で行われ、十四日に大嘗祭、十六日と十七日に大饗の儀が行われた。大饗の儀は二条離宮（現在の二条城）に造営された仮設の饗宴場で行われ、第一日目は「古式ノ献立」、二日目は「洋式晚餐」が饗され、ボンボニエールが下賜されたのはこの二日目である。大饗の儀では《入目籠形》No.6が、続いての夜宴の儀で《柏葉箱形》No.7が配られた。いずれも大嘗祭で用いられた祭器をかたどったものである。また《八稜鏡形》No.8は、天皇が東京へ還幸の後、十二月七日、八日に行われた宮中饗宴で用いられた。

なお、大饗の儀の第一日目の出席者には銀製の造花挿華（挿頭華）が下賜されている。挿華は、饗宴の際に季節の花枝を冠に挿して飾ったことの遺風とされ、大嘗祭において古くから洲浜に挿華を載せて天皇に奉られた。中世期の混乱で大嘗祭は中断されるが、江戸時代半ば、桜町天皇が再興された大嘗祭において、洲浜と挿華についても再興され、饗宴の際に臣下にも挿華が下賜される伝統が現在まで伝えられている。大正の大饗の儀においても第一日目の伝統的な古式の献立による饗宴では桜と橘の挿華が下賜され、二日目の西洋料理による饗宴とそれに続く夜宴の儀ではボンボニエールが下賜された。この和と洋のそれぞれの組み合わせには、古式の伝統を引き継ぎつつも、近代期の儀礼として、饗宴と賜物に、新しい習慣を取り入れたあたり方が示されている。

即位の礼の翌年、皇太子裕仁親王の立太子礼が十一月三日に行われた。その宮中饗宴は同月二十七日と翌

二十八日に行われ、両日ともに豊明殿において天皇皇后の主催によって行われた。その後、同月二十九日から数日にわたり霞関離宮と芝離宮において、皇太子主催の饗宴が催され、この時の二種のボンボニエールが伝えられている。このうち、《木瓜形鴛鴦文》No.9は、皇太子の伝統的ご装束である黄丹袍の文様、窠に鴛鴦を意匠としている。ご装束の衣紋を立太子のボンボニエールのデザインに用いる伝統は平成まで受け継がれている。

皇族方が身の回りのものに付けられる文字や花等のシンボルマーク、いわゆるお印が、ボンボニエールのデザインに用いられた最初の例としては、大正十一年の雍仁親王の成年式の折のものが挙げられる。六月二十五日の成年式と秩父宮家創立の翌日、千種の間で御内宴が行われたが、この日に東伏見宮依仁親王が薨去されたことにより、成年式の宮中饗宴は急遽、半年後に延期された。十二月五、六日の両日に豊明殿にて午餐があり、この折に装束の袍の衣紋にちなんだ《手箱形雲鶴文》No.26が下賜されている。その翌七日には、皇子御殿にて雍仁親王主催による御内宴があり、こちらでは、秩父宮家の紋章が付けられた《文庫形若松文》No.27、28が用いられた。このボンボニエールに雍仁親王のお印「若松」がデザインされている。

また、大正期から昭和初期のボンボニエールのあり方として、定型のものが予備品としてまとめて製作され、繰り返し饗宴で用いられたことが特徴として挙げられる。その理由として、大正期に国際交流がひろがり、度重なる外国賓客の来日の折に、その接遇に際しても用いられ、ボンボニエールが下賜される機会が大幅に増えたことが挙げられる。このような外国賓客の接遇の折には、同じ饗宴の席で同一のボンボニエールを用い

るのではなく、数種類のボンボニエールが選ばれて下賜されている。これら定型のものには、チャボやウグイス等の入った鳥籠形が各種あり、太鼓に尾長鶏の乗る諫鼓形や、冑、乗物、御所車、和舟など、日本固有種の飼い鳥や、前近代的な器物をデザインに採り上げて、日本らしさを表しているものが多い。いずれも銀製で、鍍金された比較的小さな御紋が付けられている。

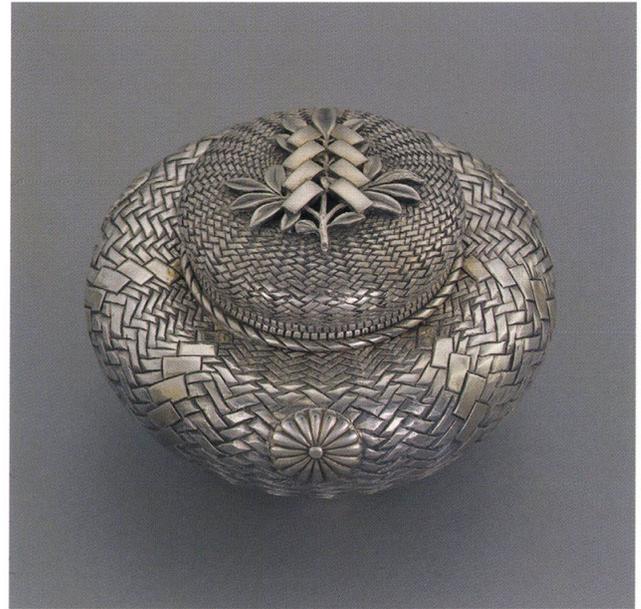
そして、ボンボニエールの底裏などに刻印が打たれた例が、大正大礼の際のボンボニエール《八稜鏡形》No.8において初めて確認される。ボンボニエールに見える刻印は金属の品位を示すホールマークとしてのものと、製造者を示すものと二種類あり、両方が打たれる場合、あるいはいずれか片方だけの場合もある。金属の品位を示す刻印は「純銀」がほとんどで、戦後は「銀製」が多い。日本において貴金属の工芸品に金属の品位を示す刻印と、販売者を示す刻印が併せて入れられるようになるのは、明治二十四年の天賞堂（銀座）の広告にその先駆けと見られる記述があり、明治四十二年の日本金工協会に天賞堂が出品した海野勝珉作《銀象嵌高彫波に鷹之図花瓶》（当館蔵）にも見いだせる。ボンボニエールの刻印には、その製造を請け負った貴金属商や時計商、百貨店などの名称が入り、例えば小林時計店の場合は木の葉形のなかに「小林製」の文字が入った刻印、宮本商行の場合は「宮本造」「宮本謹製」「宮本」がある。これらの多くが東京の日本橋、銀座に集中している。珍しい例として、横浜に関東大震災まで存在した美術商、サムライ商会の刻印が押されたものがある。実際の製作は、下町に数多く存在していた小さな自営の工場に分けられていたが、その工場や作家の刻印が入れられた例はごくわずかである。



7 柏葉箱形 [御紋]

大正4年11月17日、大正大礼 大饗夜宴の儀  
 6.1 × 6.1 × 2.9  
 銀製、刻印「純銀 小林製」

Shape of a Box Covered with Oak Leaves  
 Grand night banquet held on the second day of the  
 enthronement ceremony of Emperor Taisho  
 silver / 1915



6 入目籠形 [御紋]

大正4年11月17日、大正大礼 大饗第二日の儀  
 径6.6 高4.7  
 銀製

Shape of a Basket  
 Grand dinner banquet held on the second day of the  
 enthronement ceremony of Emperor Taisho  
 silver / 1915



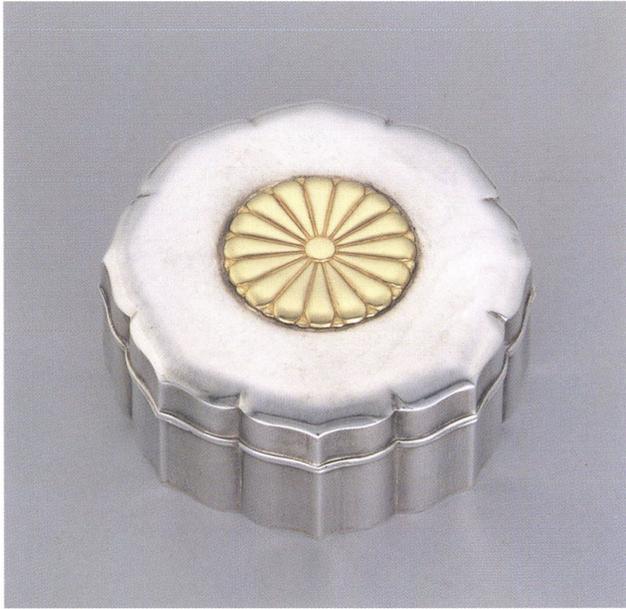
8 八稜鏡箱形 [御紋]

大正4年12月7～8日、大正大礼 東京宮中饗宴  
 径6.4 高2.5  
 銀製、刻印「村松製」

Shape of an Eight Lobed Mirror Box  
 Tokyo Imperial Palace banquet of the enthronement  
 ceremony of Emperor Taisho  
 silver / 1915



底裏刻印



10 八咫鏡形 [御紋]

大正5年11月、立太子礼 午餐(霞関離宮および芝離宮)  
径5.1 高2.1  
銀製、刻印「純銀 小林製」

Shape of the *Yata no Kagami* (the eight-span mirror; one of the Imperial regalia)

Luncheon of the investiture ceremony of the Crown Prince, held at Kasumigaseki Imperial Villa and Shiba Imperial Villa  
silver / 1916



9 木瓜形鴛鴦文 [御紋]

大正5年11月29日、立太子礼 午餐(霞関離宮)  
5.8 × 6.3 × 2.1  
銀製、刻印「純銀 小林製」

Shape of *Mokko* (chaenomeles) with Mandarin Duck Design

Luncheon of the investiture ceremony of the Crown Prince (Emperor Showa), held at Kasumigaseki Imperial Villa  
silver / 1916



底裏刻印

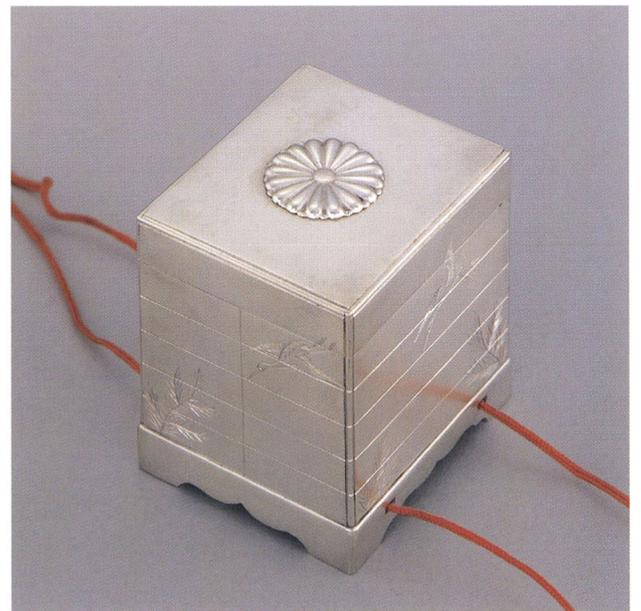


12 亀甲形 [裏菊御紋]

大正4年頃、聰子内親王・東久邇宮稔彦王御結婚記念か  
5.5 × 4.2 × 2.9  
銀製

Hexagonal Shape

Commemoration of the marriage of Princess Toshiko and Prince Naruhiko (Prince Higashikuni) ?  
silver / c.1915



11 重硯箱形松鶴文 [御紋]

大正4年5月19日、聰子内親王・東久邇宮稔彦王御結婚祝宴  
4.7 × 4.1 × 5.0  
銀製

Shape of Stacked Inkstone Boxes with Crane and Pine Design

Banquet celebrating the marriage of Princess Toshiko and Prince Naruhiko (Prince Higashikuni)  
silver / 1915



14 丸形松喰鶴文 [御紋]

大正8年5月、皇太子裕仁親王成年式 午餐(霞関離宮)  
径5.2 高2.0  
銀製、刻印「純銀 小林製」

Round Shape with Design of Cranes Carrying Pine Branches  
in their Beaks

Luncheon celebrating the coming-of-age ceremony of the Crown  
Prince Hirohito, held at Kasumigaseki Imperial Villa  
silver / 1919

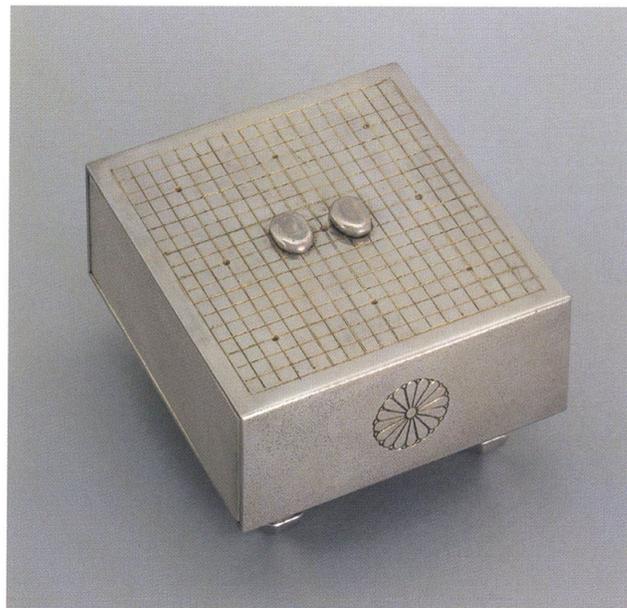


13 八稜鏡形雲鶴文 [御紋]

大正8年5月、皇太子裕仁親王成年式 午餐(霞関離宮)  
6.3 × 6.3 × 2.1  
銀製、刻印「純銀 小林製」

Shape of an Eight Lobed Mirror with Cloud and Crane Design

Luncheon celebrating the coming-of-age ceremony of the Crown  
Prince Hirohito, held at Kasumigaseki Imperial Villa  
silver / 1919



15 碁盤形 [御紋]

大正8年12月2日、  
崇仁親王(三笠宮) 御着袴  
5.1 × 4.7 × 3.1  
銀製

Shape of a Go Game Board  
*Chakko-no-gi* (donning of the *hakama*  
ceremony) of Prince Takahito (Prince  
Mikasa)

silver / 1919



17 文庫形波文 [御紋]  
 大正10年9月、皇太子外国御訪問帰国記念午餐  
 5.2 × 3.9 × 2.0  
 銀製、刻印「純銀 服部製」

Shape of a Letter Box with Wave Design  
 Luncheon commemorating the return of the Crown Prince  
 from traveling foreign countries  
 silver / 1921



16 文庫形波文 [御紋]  
 大正10年9月、皇太子外国御訪問帰国記念午餐  
 5.5 × 4.3 × 2.3  
 銀製、刻印「純銀 小林製」

Shape of a Letter Box with Wave Design  
 Luncheon commemorating the return of the Crown Prince  
 from traveling foreign countries  
 silver / 1921



(参考)《文庫形唐草文》



18 地球形 [御紋]  
 大正10年9月、皇太子外国御訪問帰国記念晩餐  
 径6.1 高6.8  
 銀製、刻印「純銀 三越製」

Shape of the Earth  
 Dinner commemorating the return of the Crown Prince  
 from traveling foreign countries  
 silver / 1921



20 楕円形 [ウェールズ公紋章]  
大正11年4月17日、英国皇太子主催晩餐(赤坂離宮)  
7.0 × 5.1 × 2.1  
銀製、刻印「三越製純銀」

Oval Shape  
Dinner hosted by the Crown Prince of England, held at  
Akasaka Imperial Villa  
silver / 1922



19 印籠形 [御紋]  
大正11年4月12日、英国皇太子来日宮中晩餐  
6.4 × 4.1 × 1.4  
銀製、刻印「@」

Shape of an Inro  
Imperial Palace dinner held for the Crown Prince of  
England on his visit to Japan  
silver / 1922

## 皇太子(昭和天皇)の外国御訪問と 英国皇太子の来日

大正十年(一九二二)三月から九月まで、皇太子裕仁親王は、英国ほかヨーロッパ各国を歴訪されている。この時に各所で下賜されたのが《文庫形唐草文》(14頁参考図版)である。外国御訪問中に実際にどのような場で用いられたのか詳らかではないが、まとまった数が用意されたと考えられる。

そして、この外国御訪問からのご帰国に際しては、三種のポンボニエールが作られた。《地球形》No.18は、同年九月十五日および十六日の赤坂離宮における帰国記念の晩餐において下賜されたもの、《文庫形波文》No.16、17は、十六日および十七日の午餐の折のものである。《文庫形波文》は、紐の付けられたもの、紐が無く小ぶりなもの二種が伝えられている。皇太子が御訪問されたヨーロッパは第一次世界大戦終結後のまもない時期で、戦火のあとがまだ生々しく残されており、皇太子は戦跡も数多くご覧になられている。《地球形》に表された地球を支える鳩は平和の象徴であり、皇太子が初めてヨーロッパを歴訪された記念の意味を込めた意匠となっている。

この皇太子外国御訪問の翌年四月には、答礼として英国エドワード皇太子が来日された。四月十二日の宮中晩餐で用いられた《印籠形》No.19は、印籠そのものの構造を踏襲し、緒締に珊瑚玉を用い、赤銅の桜花形の根付を付けた技巧の凝らされた品である。《楕円形》No.20は、同十七日に赤坂離宮において行われた英国皇太子主催の晩餐会のもので、蓋表には、エドワード皇太子すなわちウェールズ公の紋章が付されている。「三越製」の刻印から日本で準備されたことが分かる。

## 宮中饗宴の晩餐と午餐

大正十三年（一九二四）一月二十六日の皇太子（昭和天皇）御結婚に際しての宮中饗宴は、五月三十一日から四日間にわたり催された。この折には、松飾りが付く折敷に載せられた紫檀製のボンボニエール《亀甲形》No.21、22が用意された。《亀甲形》は御婚儀の折に行われる三箇夜餅の儀に用いられる紫檀螺鈿箱とその松飾りの姿からデザインされたもので、箱は長方形から亀甲の六角形へ、螺鈿も燕文から鶴文へとアレンジされて、鶴亀の取り合わせとなっている。この四日間の宮中饗宴は、初日は晩餐、あとの三日間は午餐によるもので、ボンボニエールも晩餐と午餐でわずかに細部が異なるものが製作された。晩餐のものは蓋表の御紋が螺鈿に蒔絵で、松枝の蒔絵があり、合口は金メッキである。午餐のものは、蓋表の御紋は蒔絵で松枝の蒔絵はなく、合口は銀製となっている。



### 21 亀甲形 松飾付 [御紋]

大正13年5月31日、皇太子御結婚宮中饗宴晩餐  
 本体：4.6×5.3×3.0  
 紫檀、蒔絵、螺鈿

Hexagonal Shape with Pine Decoration  
 Imperial Palace banquet dinner celebrating the marriage of  
 the Crown Prince  
 rosewood, makie, raden / 1924



### 22 亀甲形 松飾付 [御紋]

大正13年6月2日、皇太子御結婚宮中饗宴午餐  
 本体：4.8×5.3×3.2  
 紫檀、蒔絵、螺鈿

Hexagonal Shape with Pine Decoration  
 Imperial Palace banquet luncheon celebrating the marriage  
 of the Crown Prince  
 rosewood, makie, raden / 1924



24 卵形亀甲文 [御紋]

大正13年6月、皇太子御結婚午餐(東宮仮御所・赤坂離宮)  
4.8×6.2×4.0  
銀製、刻印「三越製 純銀」

Shape of an Egg with Hexagonal (tortoise shell) Patterns  
Luncheon celebrating the marriage of the Crown Prince, held at  
Togu Temporary Palace, Akasaka Imperial Villa  
silver / 1924



23 文庫形雲形文 [御紋]

大正13年6月、皇太子御結婚午餐(東宮仮御所・赤坂離宮)  
4.8×3.5×2.4  
銀製、刻印「三越製 純銀」

Shape of a Letter Box with Cloud Design  
Luncheon celebrating the marriage of the Crown Prince, held at  
Togu Temporary Palace, Akasaka Imperial Villa  
silver / 1924



25 うさぎ置物形 [久邇宮家紋]

大正13年1月19日、久邇宮良子女王御送別  
6.8×4.8×6.5  
銀製、刻印「純銀 新城製」

Shape of a Rabbit Ornament  
Commemoration of the departure of Princess  
Nagako of Kuni  
silver / 1924



底裏刻印



28 文庫形若松文(小)

[秩父宮家紋]

大正11年12月、  
雍仁親王(秩父宮)成年式御内宴  
5.2 × 4.0 × 1.9  
銀製、刻印「三越製 純銀」

Shape of a Letter Box with Young Pine  
Design (small)

Private banquet celebrating the coming-of-  
age ceremony of Prince Yasuhito (Prince  
Chichibu)  
silver / 1922

27 文庫形若松文(大)

[秩父宮家紋]

大正11年12月、  
雍仁親王(秩父宮)成年式御内宴  
5.7 × 4.3 × 2.2  
銀製、刻印「三越製 純銀」

Shape of a Letter Box with Young Pine  
Design (large)

Private banquet celebrating the coming-of-  
age ceremony of Prince Yasuhito (Prince  
Chichibu)  
silver / 1922



26 手箱形雲鶴文 [御紋]

大正11年12月5日、6日、  
雍仁親王(秩父宮)成年式 天皇后御主催の饗宴、午餐  
6.3 × 4.5 × 3.1  
銀製、刻印「純銀 サムライ」

Shape of a *Tebako* (cosmetic case) Box with Cloud and Crane  
Design

Banquet and luncheon hosted by the Emperor and Empress celebrating  
the coming-of-age ceremony of Prince Yasuhito (Prince Chichibu)  
silver / 1922



30 丸形梅花散文 [高松宮家紋]

大正14年1月、高松宮宣仁親王成年式 御内宴  
径6.4 高2.6  
銀製、刻印「三越製 純銀」

Round Shape with Scattered *Ume* Blossom Design  
Private banquet celebrating the coming-of-age ceremony  
of Prince Nobuhito (Prince Takamatsu)  
silver / 1925



29 文庫形梅花散文 [御紋]

大正14年1月17日、19日、  
高松宮宣仁親王成年式 天皇后御主催の午餐  
5.2 × 3.9 × 2.0  
銀製、刻印「三越製純銀」

Shape of a Letter Box with Scattered *Ume* Blossom Design  
Luncheon hosted by the Emperor and Empress celebrating the coming-of-  
age ceremony of Prince Nobuhito (Prince Takamatsu)  
silver / 1925



32 菊花形鳳凰文 [御紋]  
 大正14年5月、大正天皇大婚25年御祝宴  
 径5.9 高3.1  
 銀製、刻印「宮本造」

Shape of a Chrysanthemum Flower with  
 Phoenix Design  
 Banquet celebrating the 25th wedding anniversary of  
 Emperor Taisho  
 silver / 1925



31 双鶴置物 [御紋]  
 大正14年5月10日、大正天皇大婚25年宮中饗宴  
 5.6 × 6.3 × 8.3  
 銀製、刻印「三越製純銀」

Pair of Cranes  
 Imperial Palace banquet celebrating of the 25th wedding  
 anniversary of Emperor Taisho  
 silver / 1925

## 大正天皇大婚二十五年

大正十四年（一九二五）五月十日に催された大正天皇大婚二十五年の祝典では、容器としての用途を持たない《双鶴置物》No.31が饗宴の出席者に下賜された。大きさや、御紋が付けられたその姿はボンボニエールそのものだが、どこにもお菓子をを入れる部分がない。愛らしい置物を意識した、いつもとは違う趣向を図ったのであろうか。亀甲形の台の上に、岩上に立つ双鶴を配する伝統的な吉祥のデザインは、明治二十七年の明治天皇大婚二十五年祝典の立ち鶴のボンボニエールの形を受け継ぐとともに、より洗練されたものとなっている。

なお、この祝典に際しては、二十五年にちなんだ二十五弁菊花形のボンボニエール《菊花形鳳凰文》No.32も製作されており、《双鶴置物》No.31と《菊花形鳳凰文》No.32ともに、当時、東京美術学校の図案科講師であった森田武（後に同校教授、一八九四〜一九七九）に図案が依頼された。「置物図案一枚三十円、ボンボニエール図案一枚三十円」と記された森田による見積書が残されている（「用度録」大正十四年、宮内公文書館所蔵、識別番号「011」）。なお、《双鶴置物》No.31は三越呉服店（のちの株式会社三越）が受注し、六六〇個を納めている。三越は明治四十年代から宝飾品を商品として扱うようになり、大正九年以降のボンボニエールに「三越」や「三越製」などの刻印が多く認められる。



34 伏鳥籠形 [御紋]

大正～昭和初期  
径4.7 高7.0  
銀製

Shape of a Bird Cage (overturned basket)  
silver / 1910's - 30's



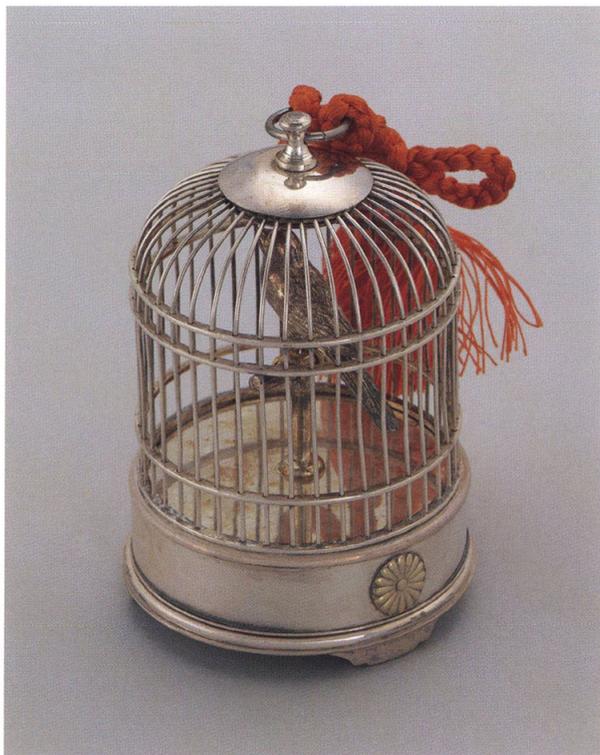
33 諫鼓形 [御紋]

大正～昭和初期  
台脚4.3×4.3 高9.9  
銀製

Shape of a Rooster on a Drum  
silver / 1910's - 30's

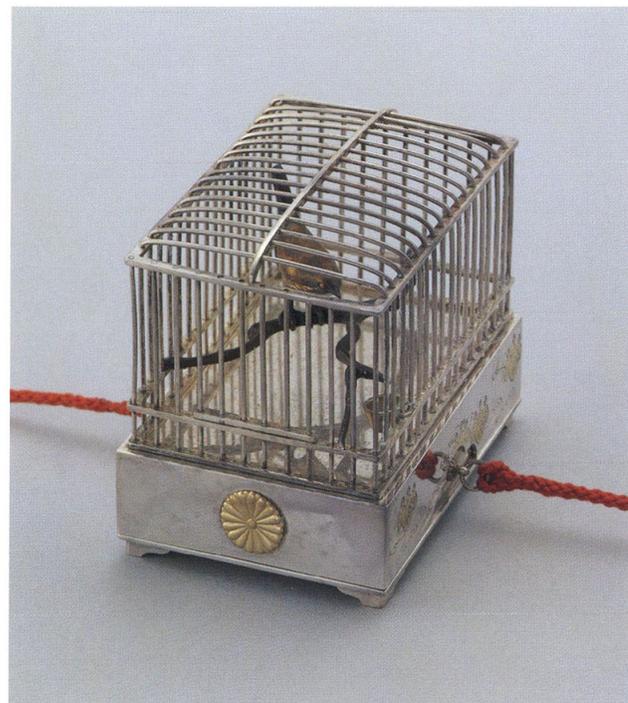
## 外国賓客の接遇

宮内省では大正四年（一九一五）から定型のボンボニエールをあらかじめ予備品として準備しておくことが行われており（『予備品録』大膳寮、大正四年、宮内公文書館所蔵、識別番号<sup>33</sup>）、外国賓客をお招きしての宮中午餐では、その時々で、数種のボンボニエールが選ばれて用いられた。昭和初期まで時代が下がるが、その例を昭和九年（一九三四）のベルギー国のタイ斯特派大使のための宮中午餐に見てみよう。タイ斯特派大使は、ベルギー国王帝アルベール一世の崩御とレオポルド三世の即位を伝えるため来日された。同年六月一日には昭和天皇は香淳皇后とともに、タイス夫妻とその令嬢のために豊明殿において午餐を催され、高松宮同妃のほか日本側からは三名がこれに陪席した。この折には高松宮宣仁親王は『角鳥籠形』No.35を、喜久子妃は『丸鳥籠形』No.36を受け取られている。この時の記録には、「甲、丸鳥籠、角鳥籠、伏せ籠、閑子鳥<sup>マ</sup>、御所車、御駕籠、御座船五十個ヲ用意ス」（『外賓参内録』昭和九年、式部職、満州国特使白耳義国特使ノ部、宮内公文書館所蔵、識別番号<sup>34</sup>）とあり、八種五十個のボンボニエールが用意されたことがわかる。本展では、大正期から昭和初期にかけて外国賓客の接遇で繰り返し用いられたと考えられる十一種のボンボニエールNo.33～43を紹介している。



36 丸鳥籠形 [御紋]  
大正～昭和初期  
径5.5 高7.5  
銀製

Shape of a Round Bird Cage  
silver / 1910's - 30's



35 角鳥籠形 [御紋]  
大正～昭和初期  
5.0 × 5.4 × 5.0  
銀製、刻印「三越銀製」

Shape of a Rectangular Bird Cage  
silver / 1910's - 30's



37 冑形 [御紋]  
大正～昭和初期  
6.0 × 6.9 高4.8  
銀製

Shape of an Armor Helmet  
silver / 1910's - 30's



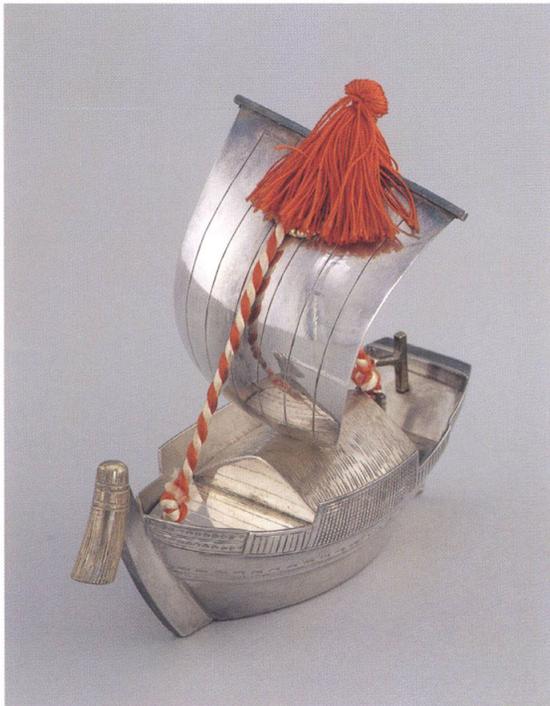
38 駕籠形 [御紋]  
大正～昭和初期  
全長11.6 高4.4  
銀製

Shape of a Palanquin  
silver / 1910's - 30's



39 御所車形 [御紋]  
大正～昭和初期  
8.7 × 4.5 × 5.8  
銀製

Shape of a Court Carriage  
silver / 1910's - 30's



40 和船形 [御紋]  
大正～昭和初期  
8.6 × 3.5 × 8.2  
銀製

Shape of a Japanese Style Ship  
silver / 1910's - 30's



41 御座船形 [御紋]

大正～昭和初期  
3.7 × 9.5 × 4.7  
銀製、刻印「三越」

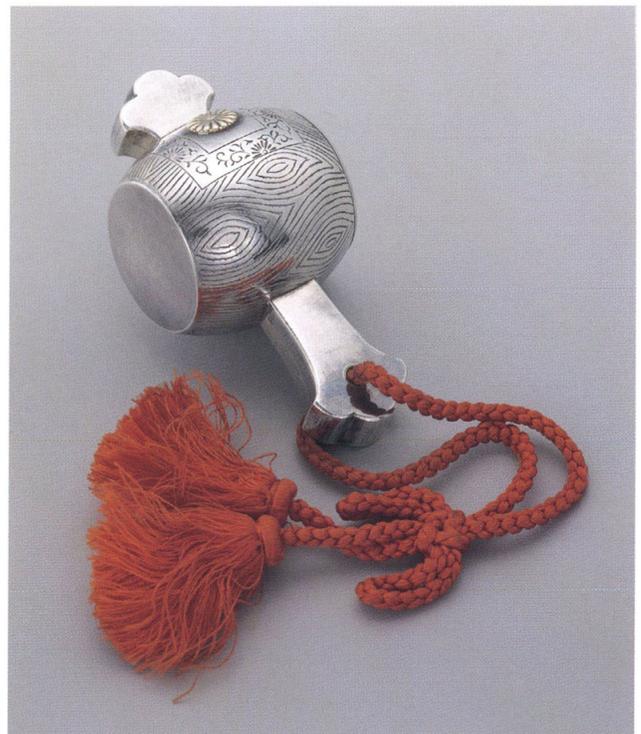
Shape of a *Gozabune* (roofed pleasure boat)  
silver / 1910's - 30's



43 文庫形唐草文 [御紋]

大正～昭和初期  
5.5 × 4.2 × 2.3  
銀製

Shape of a Letter Box with  
Arabesque Design  
silver / 1910's - 30's



42 小槌形 [御紋]

大正～昭和初期  
7.7 × 3.6 × 3.7  
銀製

Shape of a Mallet  
silver / 1910's - 30's

# 三、大正末期から昭和10年代まで——ボンボニエールのひろがり

The End of Taisho to Early Showa Era (early 1940's) — The Expansion of Bonbonnières

この時期のボンボニエールは、大正期のあり方をそのまま引き継ぎながらも、用いられた機会は広がりを見せ、そのデザインも記念の品として工夫が凝らされるようになる。例えば、昭和天皇のお子様方のご誕生とご成長に関わるものには、浴湯の儀における読書鳴弦にちなんだ形や、それぞれのお印がデザインされたもの等が伝えられている。また、昭和二年（一九二七）二月七日に行われた大正天皇の大喪儀の後に、関係者ご慰労のために同月十六日にご会食が催され、ここでは《食籠形》No.44が記念の品として用いられている。これは、ボンボニエールが用いられた機会が、慶事に限られていないことを示す一例である。

また、この時期のボンボニエールのなかでは、貞明皇后が皇太后のお立場になられ、その仮御所となった東御所や昭和五年にご移転になった大宮御所などで催された御内宴で用いられた数々の、その工夫されたデザインが注目される。その年代として最も早いものが、《鼓形若松星文》No.45で、秩父宮勢津子妃の御著書『銀のボンボニエール』の、その書名となったボンボニエールである。これは、昭和三年の秩父宮雍仁親王と勢津子妃の御結婚を前に、宮内大臣や高官、勢津子妃のご両親など、ごくお身近な方々が招待された貞明皇后御主催の御内宴において、その宴の終わりに貞明皇后が自ら両殿下に手渡されたという。貞明皇后御自身もデザインされたもので、鼓の緒のローズ色は英国の色、胴に彫られた星は星条旗つまりは米国の意味し、御結婚されるお二人がそれぞれ英国と米国で勉強されたことにちなみ、ご縁のあったそれぞれの国との

親善に一生努めるように、との思し召しが込められているという。貞明皇后から贈られたこのボンボニエールは、妃殿下の分は戦災で失われ、蔵にあった殿下の分が当館に伝えられている。当初に掛けられていたローズ色の緒が色あせたために、宮家において緒が取り替えられており、本展では高松宮家に伝来した品を紹介している。高松宮宣仁親王はこの御内宴には出席されていないが、兄宮御結婚の記念の品として貞明皇后よりお受け取りになった品で、当初の姿をそのまま伝えていると考えられる。このように、ボンボニエールが用いられた饗宴に出席されない場合でも、その後日に記念の品として受け取られた例が数多くあることが、当館のボンボニエールにとりまなう由緒から読み取ることができる。

そして、この時期の皇室における宮家は昭和天皇のご兄弟が創立された秩父宮家、高松宮家、三笠宮家のほかに十一宮家があり、それぞれの宮家でも御慶事や節目の記念に様々なボンボニエールを用意されている。各宮家の紋章が蓋表に付けられるのが通常だが、内親王の御結婚や、親王以外の男性皇族の成年式の折には、裏菊御紋を付けたボンボニエールが用いられている。さらに成年式の後に、侯爵家や伯爵家を起こされて皇籍を離れ

られた男性の旧皇族方の御結婚や、あるいは御結婚とともに皇籍を離れられる女性皇族方の御結婚のボンボニエールには両家の紋章が入られるなど、そのデザインや用いられた饗宴も広がりを見せている。昭和十年代は次第に戦争へ向かうにつれて、ボンボニエールの材質に大きな変化がみられる。昭和十二年頃から金属の使用に統制がかけられるようになり、十五年には「奢侈品等製造販売制限規則」により銀製品は全面的に禁止される。明治二十年代のその始まりから銀製を中心に製作されてきたボンボニエールは、この世相を背景に、陶磁器、漆器、竹や木製のもの、ジュラルミン製などに置き換わっていく。



44 食籠形 [御紋]  
昭和2年2月16日、大喪関係員御慰勞晩餐（赤坂離宮）  
径6.3 高2.6  
銀製、刻印「服部製」  
Shape of a Luncheon-basket  
Dinner in recognition of services of the Imperial Funeral,  
held at Akasaka Imperial Villa  
silver / 1927



45 鼓形若松星文 [御紋]

昭和3年7月12日、秩父宮御結婚につき皇太后(貞明皇后)御主催御内宴  
径4.3 全長5.8  
銀製

Shape of a Hand Drum with Young Pine and Star Design  
Private banquet hosted by Empress Dowager (Empress Teimei) celebrating the  
marriage of Prince Chichibu  
silver / 1928



No.45部分



46 箱形燕葵文 [秩父宮家紋]

昭和3年10月4日～6日、秩父宮御結婚御披露(赤坂離宮)  
5.1 × 6.2 × 3.3  
銀製

Shape of a Box with Swallow and Hollyhock Design  
Marriage announcement of Prince Chichibu, held at Akasaka  
Imperial Villa  
silver / 1928



47 葵形若松に菊文

昭和3年頃、秩父宮勢津子妃御里開御祝宴か  
4.0 × 7.5 × 2.2  
銀製、刻印「新城製」

Shape of Hollyhocks with Young Pine and  
Chrysanthemum Design  
Visit by Princess Setsuko (Princess Chichibu) to her parent's  
home?  
silver / 1928



48 大太鼓形 [御紋]  
 昭和3年11月17日、昭和大礼大饗第二日の儀  
 台座4.5×4.4 総高11.1  
 銀製、刻印「純銀服部製」

Shape of a Large Drum  
 Grand banquet dinner held on the second day of the  
 enthronement ceremony of Emperor Showa  
 silver / 1928



49 灯籠形 [御紋]  
 昭和3年11月17日、昭和大礼大饗夜宴の儀  
 5.4×5.4×4.7  
 銀製、☆形にSの刻印

Shape of a Hanging Lantern  
 Grand banquet night party held on the second day of  
 the enthronement ceremony of Emperor Showa  
 silver / 1928



50 杵形 [御紋]  
昭和3年12月7～11日、昭和大礼宮中午餐  
3.2×3.2×17.3  
銀製、刻印「純銀服部製」

Shape of a Spear  
Imperial Palace luncheon celebrating the  
enthronement ceremony of Emperor Showa  
silver / 1928



51 舞楽兜形 [御紋]  
昭和3年12月18、19日、大礼関係員御慰勞宮中午餐  
7.4×6.3×5.1  
銀製、刻印「宮本」

Shape of a Bugaku (court dance) Helmet  
Imperial Palace luncheon in recognition of services for the  
enthronement ceremony  
silver / 1928

## 昭和三年即位の礼

昭和度の即位の礼に際しては、ボンボニエールは四種が用意された。いずれも大礼で用いられる調度や雅楽器、舞楽装束をもとにデザインされている。昭和三年（一九二八）十一月十七日大饗の儀第二日では《大太鼓形》No.48が、夜宴の儀では《灯籠形》No.49のボンボニエールが下賜された。《杵形》No.50は、東京に還幸されて後、十二月七日から四日間にわたり催された宮中饗宴の折のもの。舞楽「太平楽」の装束をモチーフにした《舞楽兜形》No.51は、大礼関係者の御慰勞のために同月十八、十九日に催された午餐において用いられた。これらが実際に作られた数はどれほどだろうか。記録で確認できる限りでは《大太鼓形》五三〇個、《灯籠形》三三二〇個、《杵形》五一九五個、《舞楽兜形》五一四個となっている。また、この製作を請け負ったのは《大太鼓形》と《杵形》は服部時計店、《灯籠形》は山崎商店、《舞楽兜形》は宮本商行と、いずれも銀座に店舗を構えていた時計商、貴金属商である。実際の製作はこれらの店舗とつながりのある工場に手分けされて進められた。このように大がかりな銀器の製作に当たっては、これを支えた幾多の優れた職人の存在があったであろう。

## 英国グロスター公の来日

昭和四年（一九二九）五月、英国グロスター公ヘンリー王子は、国王ジョージ五世の名代として、昭和天皇にグロスター勲章を贈呈するために来日した。同月七日には当時の内閣総理大臣田中義一の主催による同官邸での歓迎晩餐が催され、晩餐と引き続いての夜会におけるボンボンエールがそれぞれ伝えられている。この頃、ボンボンエールが皇室の饗宴に限られたものではなく、使用の範囲が広がっていたことを示している。



52 木瓜形若松文 [高松宮家紋]  
昭和3年12月6日、イタリア国寄贈白虎隊碑建設記念  
4.9×6.3×2.0  
銀製、刻印「純銀 河野製」

Shape of *Mokko* (chaenomeles) with Young Pine Design  
Commemoration of the erection of the *Byakko-tai* (a youth military unit in Aizu Domain) monument donated by Italy silver / 1928



54 文庫形日英国旗付  
昭和4年5月7日、  
英国グロスター公来日、田中総理大臣主催夜会  
5.9×4.6×2.0  
銀製、刻印「宮本謹製」

Shape of a Letter Box with the Flags of Japan and England  
Night party hosted by Prime Minister Tanaka when the Duke of Gloucester visited Japan  
silver / 1929



53 櫃形田子の浦文  
昭和4年5月7日、英国グロスター公来日、田中総理大臣主催晩餐  
6.7×6.8×4.6  
銀製、刻印「銀製(印)」

Shape of a Chest with Tagonoura Design  
Dinner hosted by Prime Minister Tanaka when the Duke of Gloucester (British royal prince) visited Japan  
silver / 1929



55 太鼓形 [御紋]  
 昭和5年2月、高松宮御結婚につき皇太后(貞明皇后)御主催御内宴  
 4.3×4.2×7.1  
 銀製、刻印「純銀 小林」

Shape of a Drum  
 Private banquet hosted by the Empress Dowager (Empress Teimei)  
 celebrating the marriage of Prince Takamatsu  
 silver / 1930



56 洲浜形 [高松宮家紋]  
 昭和5年2月18～20日、高松宮御結婚御披露  
 4.0×6.2×1.8  
 銀製、刻印「昭和五季春」

Shape of a *Subama* (sandy beach design)  
 Marriage announcement of Prince Takamatsu  
 silver / 1930



57 櫃形月に波文 裏蓋に[徳川家紋]  
 昭和5年2月26日、高松宮喜久子妃御里開  
 6.5×6.3×3.9  
 銀製、刻印「小林製」

Shape of a Chest with Moon and Wave Design  
 Visit by Princess Kikuko (Princess Takamatsu) to her  
 parent's home  
 silver / 1930



59 丸形紋章付

昭和5年10月、高松宮同妃御外遊ポーランドにて  
径4.7 高1.7  
銀製、刻印「8/10 1930」

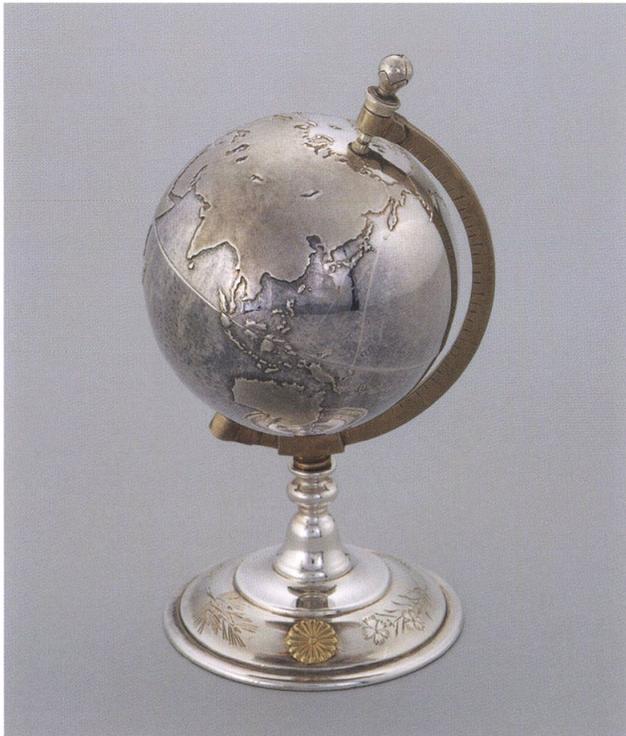
Round Shape with a Crest  
Prince and Princess Takamatsu's visit to Poland  
silver / 1930



58 丸形王冠にイニシャル入

昭和5年9月、高松宮同妃御外遊デンマークにて、か  
径5.7 高2.8  
玳瑁

Round Shape with Crown and Initials  
Prince and Princess Takamatsu's visit to Denmark?  
tortoise shell / 1930



60 地球儀形 [御紋]

昭和6年7月1日、  
高松宮同妃御帰国につき皇太后(貞明皇后)御主催御内宴、大宮御所にて  
径5.7 高11.0  
銀製

Shape of a Globe  
Private banquet hosted by the Empress Dowager (Empress Teimei) on the  
return of Prince and Princess Takamatsu to Japan, held at Omiya Palace  
silver / 1931

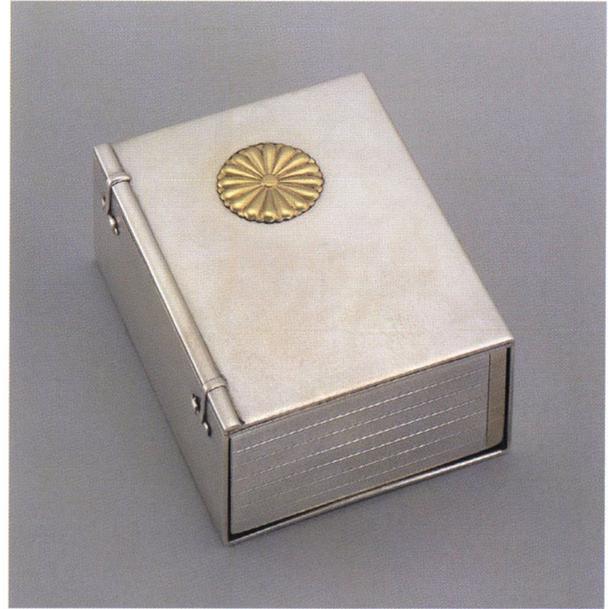
高松宮同妃の御外遊

昭和五年(一九三〇)四月、御婚儀を挙げられて間もない高松宮宣仁親王と喜久子妃は、約十四ヶ月間におよぶ外遊に出かけられ、ヨーロッパ各国とアメリカ合衆国を御訪問された。前年に英国グロスター公が来日されたことの答礼、スペイン国王への菊花章頸飾を御贈進のため昭和天皇のご名代として両国を公式に御訪問され、お立ち寄りになられた各国では交流を深められた。この外国御訪問の折の記念の品として小さな丸い蓋付容器が二点、他のボンボニールとともに伝えられている。その詳しい由緒は残されていないが、蓋表のモノグラムや印章から王室の方々とのご交流の中で受け取られたものと推察される。また、御帰国後に貞明皇后が催された記念の御内宴では、宮号ゆかりの松枝と喜久子妃のお印の撫子が台に刻まれた《地球儀形》№60が用いられている。



62 梅花形 [御紋]  
 昭和4年12月6日、成子内親王御着袴御祝宴  
 径5.1 高2.7  
 銀製、刻銘「昭和四年十二月六日」

Shape of an *Ume* Blossom  
 Banquet celebrating the *chakko-no-gi* of Princess Shigeko  
 silver / 1929



61 和書形 [御紋]  
 大正14年12月12日、成子内親王御誕生御祝宴  
 5.5 × 4.2 × 2.2  
 銀製、刻銘「大正十四季十二月吉日」刻印「三越製 純銀」

Shape of a Japanese Book  
 Banquet celebrating the birth of Princess Shigeko  
 silver / 1925



64 菊花形 [御紋]  
 昭和9年3月16日、和子内親王御着袴御祝宴  
 径6.0 高2.8  
 銀製、刻銘「孝宮御着袴記念」

Shape of a Chrysanthemum Flower  
 Banquet celebrating the *chakko-no-gi* of Princess Kazuko  
 silver / 1934



63 卷子形 [御紋]  
 昭和4年10月6日、和子内親王御誕生御祝宴  
 径2.6 全長7.7  
 銀製

Shape of a Scroll  
 Banquet celebrating the birth of Princess Kazuko  
 silver / 1929



66 扇形菊桜文 [御紋]  
 昭和10年11月26日、厚子内親王御着袴御祝宴  
 3.6 × 8.0 × 1.6  
 銀製、刻印「三越」  
 Shape of a Fan with Cherry Blossom Design  
 Banquet celebrating the *chakko-no-gi* of Princess Atsuko  
 silver / 1935



65 文箱形弓に巻物文 [御紋]  
 昭和6年3月13日、厚子内親王御誕生御祝宴  
 5.5 × 4.6 × 1.5  
 銀製、刻印「純銀(安藤七宝店印)」  
 Shape of a Letter Box with Bow and Scroll Design  
 Banquet celebrating the birth of Princess Atsuko  
 silver / 1931



67 でんでん太鼓形 [御紋]  
 昭和10年12月5日、  
 正仁親王(常陸宮殿下)御誕生御内宴  
 径4.6 全長9.9  
 銀製、刻印「三越」  
 Shape of a Pellet Drum  
 Private banquet celebrating the birth of  
 Prince Masahito (HIH Prince Hitachi)  
 silver / 1935



68 舞楽兜形 [御紋]

昭和9年2月23日、皇太子(天皇陛下)御誕生宮中饗宴  
6.3 × 6.3 × 4.9  
銀製、刻印「三越製」

Shape of a *Bugaku* (court dance) Helmet  
Imperial Palace banquet celebrating the birth of  
the Crown Prince (HM the Emperor)  
silver / 1934

69 犬張子形 [御紋]

昭和9年2月23日、皇太子(天皇陛下)御誕生御内宴  
3.0 × 5.4 × 5.0  
銀製、刻印「三越製」

Shape of a Papier-mache Dog  
Private banquet celebrating the birth of the Crown Prince  
(HM the Emperor)  
silver / 1934



70 文箱形鳥居文 [御紋]

昭和9年4月5日、皇太子(天皇陛下)初御参拝記念  
7.1 × 3.7 × 2.1  
銀製、刻銘「東宮初御参拝記念」

Shape of a Letter Box with Shrine Gate Design  
Commemoration of the first visit of the Crown Prince  
(HM the Emperor) to a shrine  
silver / 1934



72 背囊形 [御紋]  
昭和9年3月24日、  
崇仁親王(三笠宮)陸軍士官学校予科御卒業御祝  
5.7×6.8×3.6  
銀製

Shape of a Knapsack  
Celebration of Prince Takahito (Prince Mikasa)'s graduation  
from preparatory course of Military Academy  
silver / 1934

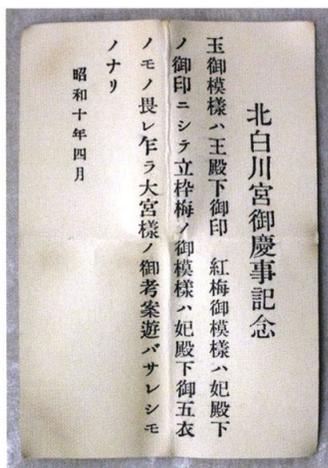


71 手鏡形すみれ文 [御紋]  
昭和5年5月、  
東御所より大宮御所へ御移転につき皇太后(貞明皇后)御主催御内宴  
8.1×5.8×1.5  
銀製、刻印「小林」

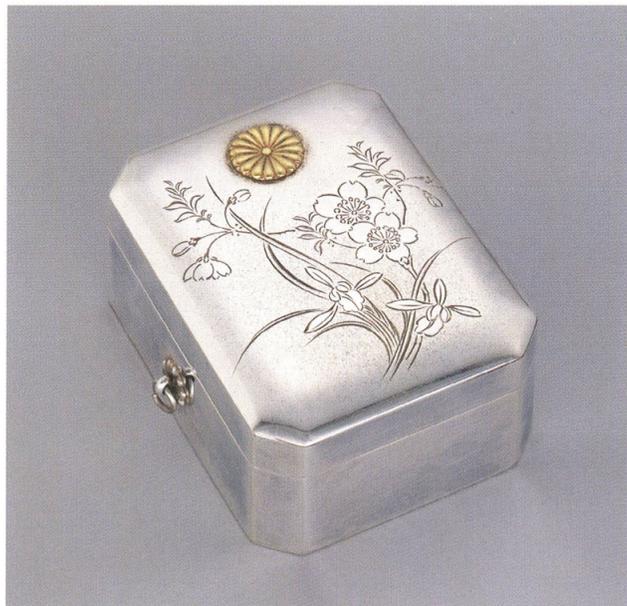
Shape of a Hand Mirror with Violet Design  
Private banquet hosted by the Empress Dowager (Empress Teimei) when  
she moved from Higashi Residence to Omiya Palace  
silver / 1930

## 貞明皇后とボンボニエール

貞明皇后が皇太后のお立場となられた昭和期、皇族方の人生の節目を祝い、関係者をお招きしての御内宴を大宮御所などで催されており、その折々に用いられたボンボニエールには、デザインにその由緒を想起させる工夫がなされている。《手鏡形すみれ文》No.71は、東御所より大宮御所へご移転になられた折の幾度かの御内宴で用いられたもので、貞明皇后の御歌「うつつして匂う春野の花すみれ 人の心にうつしてしかな」に由来するのではないかと、この指摘がこれまでにされている。《手箱形桜蘭文》No.73は、昭和九年(一九三四)七月三日、秩父宮雍仁親王が昭和天皇のご名代として訪問された満州から帰国の後、雍仁親王とその随員ご慰労のため催された御内宴の折のもので、日本と満州をそれぞれ象徴する花、桜と蘭を取り合わせている。《提灯形寿字三笠山杉文》No.78は、昭和十年の三笠宮崇仁親王の成年式に際して翌年に催された御内宴のもので、御紋の反対側には三笠山にお印の若杉、そして壽の文字が刻まれる。奉祝の提灯行列の提灯にちなんだものであろうが、壽は大正天皇のお印でもある。また、北白川宮永久王御結婚の折の《八稜鏡形勾玉に紅梅文》No.85について、高松宮家に伝えられた品には、そのデザインの説明を記した印刷カードが納入されている。これによれば、紅梅に立涌の文様は貞明皇后が考案されたという。ボンボニエールのデザインに貞明皇后が深く関わられたことを示す資料である。



(参考) 印刷カード



73 手箱形桜蘭文 [御紋]

昭和9年7月2日、  
秩父宮満州国より御帰国につき皇太后  
(貞明皇后)御主催御内宴、大宮御所にて  
5.5 × 4.2 × 2.6  
銀製、刻印「小林製」

Shape of a *Tebako* Box with Cherry  
Blossom and Orchid Design  
Private banquet hosted by the Empress  
Dowager (Empress Teimei) when Prince  
Chichibu returned from Manchuria, held  
at Omiya Palace  
silver / 1934



75 小槌形鳳凰文 [御紋]

昭和10年4月14日、満州国皇帝御退京につき御送別午餐  
3.9 × 7.0 × 3.9  
銀製

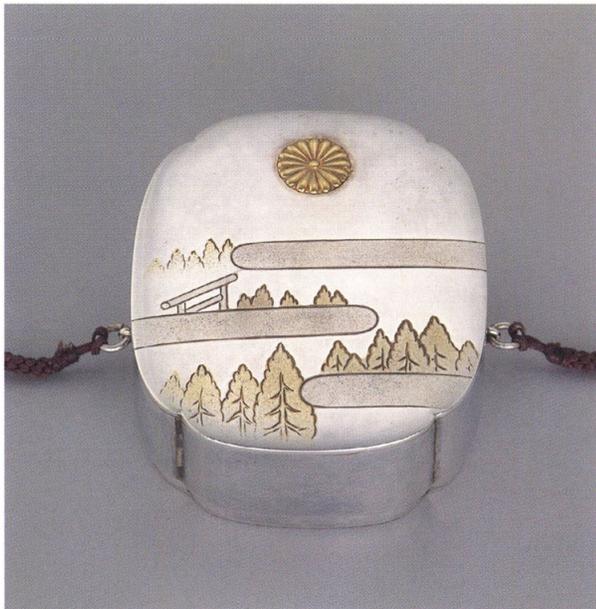
Shape of a Mallet with Phoenix Design  
Farewell luncheon on the departure of the Emperor of  
Manchuria from Tokyo  
silver / 1935



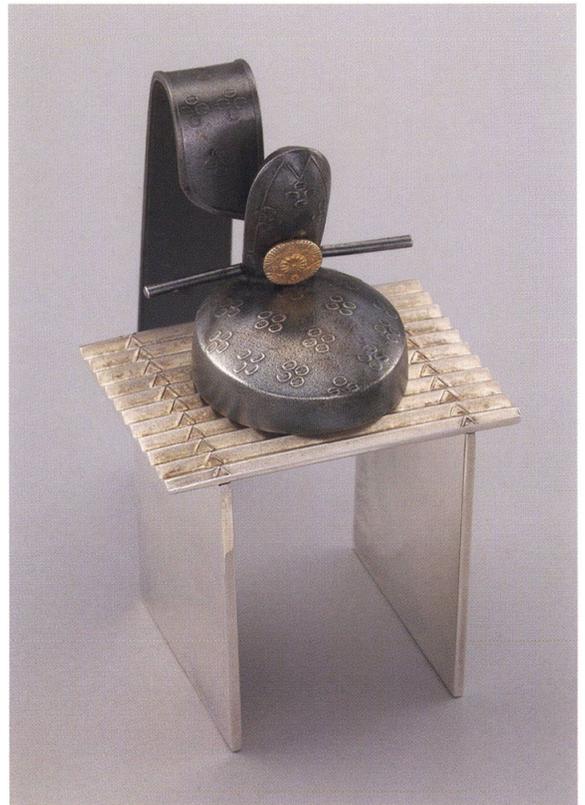
74 宝船形 [御紋]

昭和10年4月6日、満州国皇帝来日宮中晩餐  
3.1 × 9.2 × 6.9  
銀製、刻印「三越銀製」

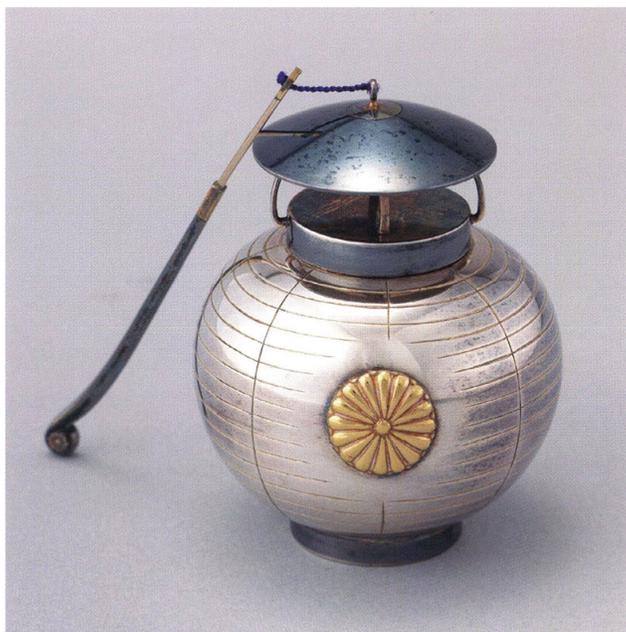
Shape of a Treasure Ship  
Imperial Palace dinner when the Emperor of Manchuria  
visited Japan  
silver / 1935



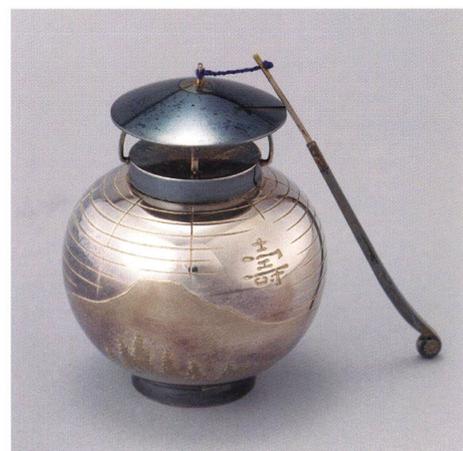
77 手箱形鳥居文 [御紋]  
 昭和10年12月3日、4日、三笠宮崇仁親王成年式御祝宴  
 5.6 × 4.6 × 1.9  
 銀製、刻印「三越」  
 Shape of a *Tebako* Box with Shrine Gate Design  
 Banquet celebrating the coming-of-age ceremony of Prince  
 Takahito (Prince Mikasa)  
 silver / 1935



76 冠形 [三笠宮家紋]  
 昭和10年12月15日、三笠宮崇仁親王成年式御祝宴  
 7.2 × 4.5 × 7.4  
 銀製、刻印「三越」  
 Shape of a Court Headgear  
 Banquet celebrating the coming-of-age ceremony of Prince  
 Takahito (Prince Mikasa)  
 silver / 1935



78 提灯形寿字三笠山杉文 [御紋]  
 昭和11年2月16日、  
 三笠宮崇仁親王成年式につき皇太后(貞明皇后)御主催御内宴、  
 大宮御所にて  
 径5.2 高6.9  
 銀製、刻印「銀製」  
 Shape of a Paper Lantern with the Character "Kotobuki", and  
 Mt. Mikasa and Japanese Cedar Design  
 Private banquet hosted by the Empress Dowager celebrating the  
 coming-of-age ceremony of Prince Takahito (Prince Mikasa), held at  
 Omiya Palace  
 silver / 1936



No.78の背面



79 木瓜形桐文 [三笠宮家紋]  
昭和16年11月2日、  
三笠宮御結婚御披露(霞関離宮)  
径5.9 高2.0  
ジュラルミン

Shape of *Mokko* (chaenomeles) with  
Paulownia Design  
Marriage announcement of Prince  
Mikasa, held at Kasumigaseki Palace  
duralumin / 1941

80 扇形三笠山に若杉桐文 [御紋]  
昭和16年12月7日、  
三笠宮御結婚につき皇太后(貞明皇后)御主催  
御内宴、大宮御所にて  
6.8 × 9.4 × 3.0  
陶器

Shape of a Fan with Mt. Mikasa, Young  
Cedar, and Paulownia Design  
Private banquet hosted by the Empress Dowager  
celebrating the marriage of Prince Mikasa, held at  
Omiya Palace  
earthenware / 1941



81 巢籠鶴形 [三笠宮家紋]  
昭和19年6月18日、  
三笠宮甯子内親王御誕生御祝宴  
4.6 × 8.2 × 4.0  
磁器、染付銘(大倉陶園)

Shape of a Nesting Crane  
Banquet celebrating the birth of Princess  
Yasuko of Mikasa  
porcelain / 1944



83 砲弾形 [北白川宮家紋]  
 昭和6年10月26日、北白川宮永久王陸軍砲兵少尉御任官御祝宴  
 6.9 × 3.2 × 2.9  
 銀製、刻印「純銀三越」  
 Shape of an Artillery Shell  
 Banquet celebrating the appointment of Prince Nagahisa  
 (Prince Kitashirakawa) to an artillery major in the army  
 silver / 1931



82 雪輪形菊に勾玉文 [北白川宮家紋]  
 昭和5年3月1日、北白川宮永久王成年式御祝宴  
 径5.8 高2.5  
 銀製、刻印「純銀 鈴木謹製」  
 Shape of a *Yukiwa* (snow crystal design) with Chrysanthemum  
 and *Magatama* (comma-shaped bead) Design  
 Banquet celebrating the coming-of-age ceremony of Prince Nagahisa  
 (Prince Kitashirakawa)  
 silver / 1930



85 八稜鏡形勾玉に紅梅文 [北白川宮家紋]  
 昭和10年4月29日、北白川宮永久王御結婚御披露(北白川宮邸)  
 径5.0 総高3.1  
 銀製  
 Shape of an Eight Lobed Mirror with *Magatama* and Red *Ume*  
 Blossom Design  
 Marriage announcement of Prince Nagahisa (Prince Kitashirakawa), held at  
 the Kitashirakawa residence  
 silver / 1935



84 貝桶形流水菊花葵文 [御紋]  
 昭和10年7月8日、北白川宮永久王御結婚につき皇太后(貞明皇后)  
 御主催御内宴、赤坂離宮にて  
 4.3 × 4.7 × 5.9  
 銀製、刻印「銀製」  
 Shape of a *Kaioke* (bucket for clamshells), with Flowing Water,  
 Chrysanthemum and Hollyhock Design  
 Private banquet hosted by the Empress Dowager (Empress Teimei)  
 celebrating the marriage of Prince Nagahisa (Prince Kitashirakawa), held at  
 Akasaka Imperial Villa  
 silver / 1935



87 桃形 [北白川宮家紋]  
 昭和9年12月22日、北白川宮佐和子女王御結婚御送別  
 6.3 × 3.2 × 4.1  
 銀製、刻印「銀製」

Shape of a Peach  
 Departure of Princess Sawako of Kitashirakawa for marriage  
 silver / 1934



86 卵形弓に菊文 [北白川宮家紋]  
 昭和8年2月18日、北白川宮美年子女王御結婚御里開  
 6.0 × 4.5 × 2.4  
 銀製、刻印「(印)」

Shape of an Egg with Bow and Chrysanthemum  
 Design  
 Visit by Princess Mineko of Kitashirakawa to her parent's  
 home after marriage  
 silver / 1933



89 羽子板形桐桃文 [北白川宮家紋]  
 昭和10年1月9日、北白川宮佐和子女王御結婚御里開(霞関離宮)  
 7.9 × 3.1 × 1.1  
 銀製、刻印「銀製」

Shape of a *Hagoita* (battledore) with Paulownia and Peach Design  
 Visit by Princess Sawako of Kitashirakawa to her parent's home after  
 marriage, held at Kasumigaseki Imperial Villa  
 silver / 1935



88 重扇形竹文 [北白川宮家・東園家紋]  
 昭和10年1月7日、北白川宮佐和子女王御結婚御披露(華族会館)  
 3.8 × 7.4 × 1.4  
 銀製

Shape of Stacked Fans with Bamboo Design  
 Marriage announcement of Princess Sawako of Kitashirakawa, held at  
 Kazoku Kaikan  
 silver / 1935



91 入隅箱形牡丹に太刀文(朱) [北白川宮家紋]  
 昭和16年10月10日、北白川宮多惠子女王御結婚御披露(北白川宮邸)  
 5.0 × 6.1 × 3.1  
 漆塗、蒔絵

Shape of a Box with Internal Corners, with Peony and Sword Design (red)  
 Marriage announcement of Princess Taeko of Kitashirakawa, held at the Kitashirakawa residence  
 lacquer, makie / 1941



90 入隅箱形牡丹に太刀文(黒) [北白川宮家紋]  
 昭和16年10月10日、北白川宮多惠子女王御結婚御披露(北白川宮邸)  
 5.3 × 6.0 × 3.4  
 漆塗、蒔絵

Shape of a Box with Internal Corners, with Peony and Sword Design (black)  
 Marriage announcement of Princess Taeko of Kitashirakawa, held at the Kitashirakawa residence  
 lacquer, makie / 1941

贈り分けられたボンボニエール

No. 90と91の黒塗りとタメ塗り(朱)に銀で蒔絵されたボンボニエールは、高松宮同妃が、昭和十六年(一九四二)十月十日に北白川宮邸において催された多惠子女王と徳川圀禎との御結婚御披露宴にご出席された折に受け取られたものである。中に納められた由緒を記した札には、黒塗りの分を殿下が、タメ塗りの分を妃殿下が受け取られたことが記される。男女で異なったボンボニエールが贈られた例である。



92 櫃形 [北白川宮家紋]  
 昭和16年4月16日、北白川宮多惠子女王御結婚御里開  
 5.4 × 6.8 × 4.8  
 漆塗、蒔絵

Shape of a Chest  
 Visit by Princess Taeko of Kitashirakawa to her parent's home after marriage  
 lacquer, makie / 1941



94 手箱形松梅文 [裏菊御紋]

昭和18年12月6日、成子内親王・東久邇宮盛厚王御結婚  
7.4 × 6.1 × 3.3  
漆塗、蒔絵

Shape of a *Tebako* Box with Pine and *Ume* Blossom Design  
Marriage of Prince Shigeko and Prince Morihiro of Higashikuni  
lacquer, *makie* / 1943



93 手箱形松文 [裏菊御紋]

昭和11年6月28日、東久邇宮盛厚王成年式御祝宴(霞関離宮)  
6.2 × 4.4 × 2.3  
銀製、刻印「純銀 宮本造」

Shape of a *Tebako* Box with Pine Design  
Banquet celebrating the coming-of-age ceremony of Prince Morihiro  
of Higashikuni, held at Kasumigaseki Imperial Villa  
silver / 1936



96 丸形梅唐草文 [御紋]

昭和18年10月5日、  
成子内親王・東久邇宮盛厚王御結婚御祝宴  
径6.8 高2.7  
木製、蒔絵

Round Shape with *Ume* Blossom and Arabesque Design  
Luncheon celebrating the marriage of Prince Shigeko and Prince  
Morihiro of Higashikuni, held at the Imperial Palace  
wood, *makie* / 1943



95 丸形梅枝文 [御紋]

昭和18年12月6日、成子内親王・東久邇宮盛厚王御結婚につき皇太后  
(貞明皇后)主催御内宴、大宮御所にて  
径5.6 高2.3  
竹、蒔絵

Round Shape with *Ume* Blossom Branch Design  
Private banquet hosted by the Empress Dowager (Empress Teimei) celebrating  
the marriage of Prince Shigeko and Prince Morihiro of Higashikuni, held at  
Omiya Palace  
bamboo, *makie* / 1943



98 洋書形 [裏菊御紋]  
 昭和5年5月、久邇宮邦英王(のち東伏見邦英)成年式御披露  
 6.9 × 4.9 × 3.2  
 銀製、刻印「新城製」  
 Shape of Western Books  
 Coming-of-age ceremony of Prince Kunihide of Kuni, later  
 Kunihide Higashifushimi  
 silver / 1930



97 重扇形松竹梅文 [久邇宮家紋]  
 大正14年4月27日、久邇宮朝融王・伏見宮知子女王御結婚  
 4.0 × 8.6 × 2.2  
 銀製、刻印「純銀」  
 Shape of Stacked Fans with Pine, Bamboo, and Ume  
 Blossom Design  
 Marriage of Prince Asakira (Prince Kuni) and Princess Tomoko  
 of Fushimi  
 silver / 1925



100 手箱形若松文 [久邇宮家紋]  
 昭和14年3月28日、久邇宮恭仁子女王御結婚御祝宴(久邇宮邸)  
 7.4 × 6.0 × 3.4  
 漆塗、蒔絵  
 Shape of a *Tebako* Box with Young Pine Design  
 Banquet celebrating marriage of Princess Kuniko of Kuni, held at the  
 Kuni residence.  
 lacquer, *makie* / 1939



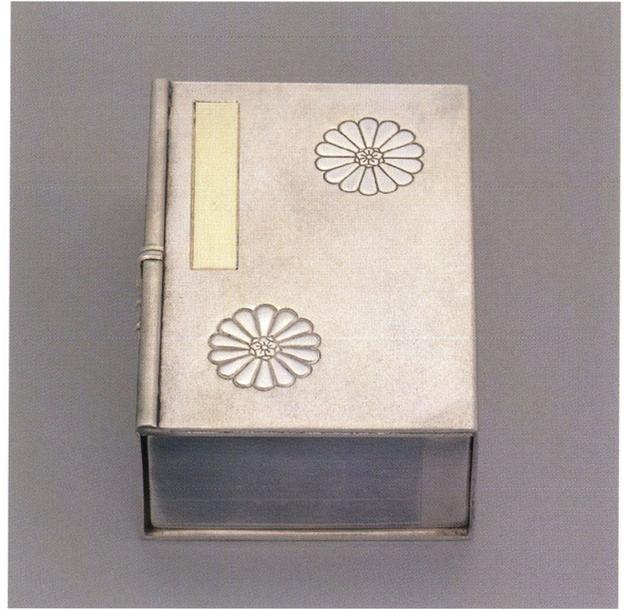
99 箱形 [東伏見家・亀井家紋]  
 昭和12年5月7日、東伏見邦英御結婚御披露(帝国ホテル)  
 3.6 × 5.5 × 2.5  
 銀製、刻印「銀製Ⓢ製」  
 Shape of a Box  
 Marriage announcement of Kunihide Higashifushimi, held at the  
 Imperial Hotel  
 silver / 1937



102 重扇形松竹梅文 [華頂家紋]  
 昭和3年1月14日、華頂博信御結婚御披露(帝国ホテル)  
 3.9 × 7.9 × 2.0  
 銀製、刻印「天賞堂」

---

Shape of Stacked Fans with Pine, Bamboo, and *Ume* Blossom Design  
 Marriage announcement of Hironobu Kacho, held at the Imperial Hotel  
 silver / 1928



101 和書形 [裏菊御紋]  
 大正14年10月、伏見宮博信王(のち華頂博信)成年式御披露  
 5.6 × 3.8 × 2.0  
 銀製、刻印「天賞堂」

---

Shape of a Japanese Book  
 Coming-of-age ceremony of Prince Hironobu of Fushimi, later Hironobu Kacho  
 silver / 1925



104 扇形松竹梅文 [伏見家・柳沢家紋]  
 昭和11年11月15日、伏見博英御結婚御披露(水交社)  
 3.6 × 7.1 × 2.9  
 銀製、刻印「F.T.B(印)」

---

Shape of a Fan with Pine, Bamboo, and *Ume* Blossom Design  
 Marriage announcement of Prince Hirohide of Fushimi, held at Suikosha  
 silver / 1936



103 丸形蔓草波文 [裏菊御紋]  
 昭和8年1月9日、伏見宮博英王(のち伏見博英)成年式御披露  
 径5.4 高2.8  
 銀製、刻印「F.T.B(印)」

---

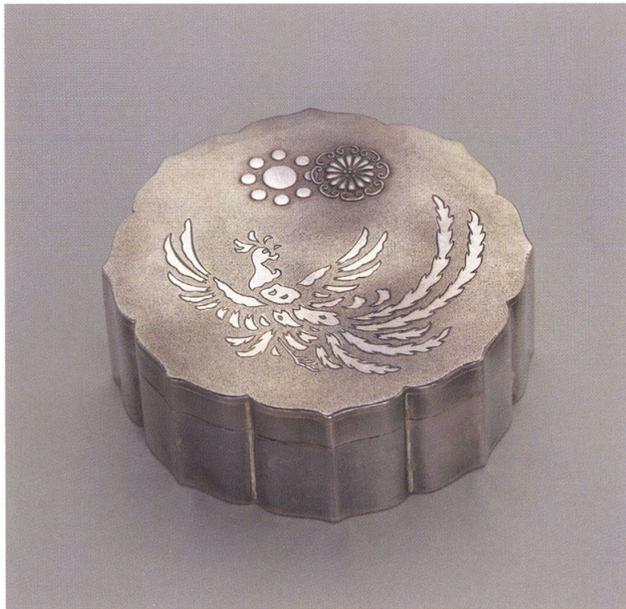
Round Shape with Vine and Wave Design  
 Coming-of-age ceremony of Prince Hirohide of Fushimi, later Hirohide Fushimi  
 silver / 1933



106 丸形含綬鳥文 [筑波家・毛利家紋]  
 昭和3年10月28日、筑波藤麿御結婚御披露  
 径6.1 高2.2  
 銀製、刻印「銀製鈴木謹製 昭和三年十月二十八日」  
 Round Shape with Design of Flying Birds Grasping  
 a Ribbon with their Beaks  
 Marriage announcement of Fujimaro Tsukuba  
 silver / 1928



105 竹形 [裏菊御紋]  
 大正14年4月8日、山階宮藤麿王(のち筑波藤麿)成年式御披露  
 径5.0 高2.1  
 銀製、刻印「鈴木製」  
 Shape of a Bamboo  
 Coming-of-age ceremony of Prince Fujimaro of Yamashina, later  
 Fujimaro Tsukuba  
 silver / 1925



108 八稜鏡形鳳凰文 [葛城家・細川家紋]  
 昭和9年、葛城茂麿御結婚  
 径5.9 高2.2  
 銀製、刻印「純銀 宮本造」  
 Shape of an Eight Lobed Mirror with Phoenix  
 Design  
 Marriage of Shigemaro Katsuragi  
 silver / 1934



107 台付箱形桐文 [裏菊御紋]  
 昭和3年4月28日、山階宮茂麿王(のち葛城茂麿)成年式御祝宴  
 6.7×4.7×4.0  
 銀製、刻銘「昭和三年四月二十八日」刻印「純銀鈴木製」  
 Shape of a Box with a Footed Tray, with Paulownia Design  
 Banquet celebrating the coming-of-age ceremony of Prince Shigemaro  
 of Yamashina, later Shigemaro Katsuragi  
 silver / 1928



110 竹形 [御紋]

昭和9年6月27日、  
竹田宮恒徳王御結婚につき皇太后（貞明皇后）御主催御内宴、  
大宮御所にて  
6.5 × 3.2 × 1.9  
銀製、刻印「純銀 宮本造」

Shape of a Bamboo

Private banquet hosted by the Empress Dowager (Empress Teimei)  
celebrating the marriage of Prince Tsuneyoshi (Prince Takeda), held  
at Omiya Palace  
silver / 1934



109 竹筒形 [裏菊御紋]

昭和4年5月11日、竹田宮恒徳王成年式御祝宴（竹田宮邸）  
径4.1 高5.3  
銀製、刻印「純銀 鈴木謹製」

Shape of a Bamboo Cylinder

Banquet celebrating the coming-of-age ceremony of Prince  
Tsuneyoshi (Prince Takeda), held at the Takeda residence  
silver / 1929



111 檜扇形藤桜文 [竹田宮家紋]

昭和9年5月26日、  
竹田宮恒徳王御結婚御披露（竹田宮邸）  
9.8 × 4.3 × 1.2  
銀製、刻印「純銀 宮本造」

Shape of a *Hiogi* (wooden fan) with  
Wisteria and Cherry Blossom Design  
Marriage announcement of Prince  
Tsuneyoshi (Prince Takeda), held at the  
Takeda residence  
silver / 1934



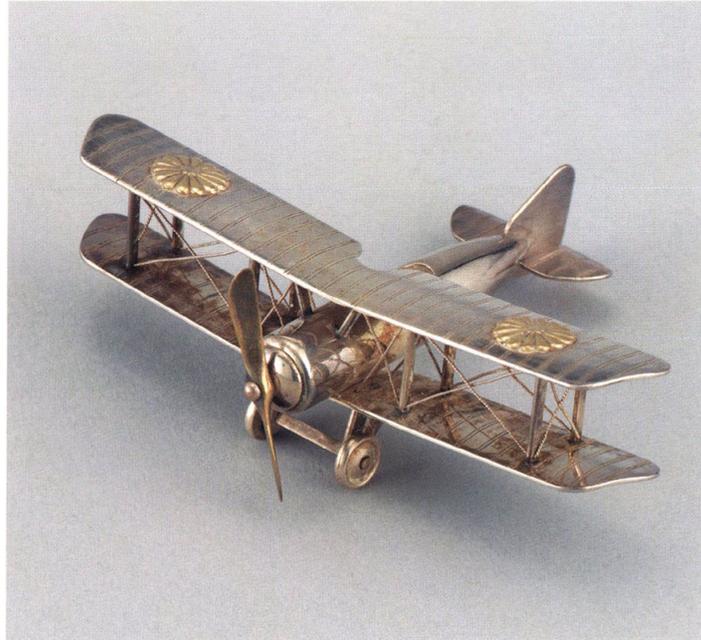
112 箱形モノグラム入 [竹田宮家・佐野家紋]  
 昭和9年3月29日、竹田宮禮子女王御結婚御披露  
 5.3 × 4.2 × 2.5  
 銀製、刻印「純銀 宮本造」  
 Shape of a Box with a Monogram  
 Marriage announcement of Princess Ayako of Takeda  
 silver / 1934



113 馬蹄形松巴文 [竹田宮家紋]  
 昭和9年3月28日、竹田宮禮子女王御結婚御里開  
 6.1 × 5.6 × 1.9  
 銀製、刻印「純銀 宮本造」  
 Shape of a Horseshoe with Pine and *Tomoe*  
 (comma) Design  
 Visit by Princess Ayako of Takeda to her parent's home  
 after marriage  
 silver / 1934



114 亀甲形松喰鶴文 [竹田宮家紋]  
 昭和9年3月18日、竹田宮禮子女王御送別  
 6.7 × 4.4 × 1.7  
 銀製、刻印「純銀 宮本造」  
 Hexagonal Shape with Design of Cranes  
 Grasping a Pine Branch  
 Commemoration of departure of Princess Ayako of  
 Takeda  
 silver / 1934



115 飛行機形 [裏菊御紋]  
 昭和7年10月、朝香宮孚彦王成年式御祝宴  
 6.7 × 9.1 × 3.4  
 銀製

---

Shape of an Airplane  
 Banquet celebrating the coming-of-age ceremony of  
 Prince Takahiko of Asaka  
 silver / 1932



117 戦車形 [朝香宮家紋]  
 昭和8年10月20日、朝香宮孚彦王陸軍歩兵少尉御任官御披露  
 8.0 × 5.2 × 3.5  
 銀製、刻印「銀製 宮本謹製」

---

Shape of an Army Tank  
 Announcement of the appointment of Prince Takahiko of Asaka to  
 second lieutenant of the army infantry  
 silver / 1933



116 鉄帽形 [裏菊御紋]  
 昭和7年11月21日、朝香宮孚彦王成年式御祝宴(霞関離宮)  
 7.1 × 6.9 × 4.2  
 銀製、刻印「純銀 宮本造」

---

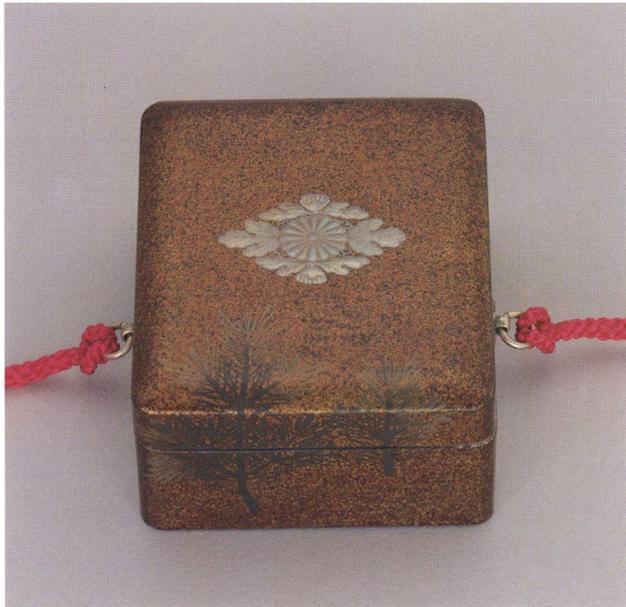
Shape of an Iron Helmet  
 Banquet celebrating the coming-of-age ceremony of Prince  
 Takahiko of Asaka, held at Kasumigaseki Imperial Villa  
 silver / 1932



119 台付文庫形 [朝香宮家紋]  
 昭和6年5月、朝香宮紀久子女王御結婚御祝宴  
 6.0 × 5.1 × 2.5  
 銀製、刻印「純銀 宮本造」  
 Shape of a Letter Box with a Footed Tray  
 Banquet celebrating the marriage of Princess Kikuko  
 of Asaka  
 silver / 1931



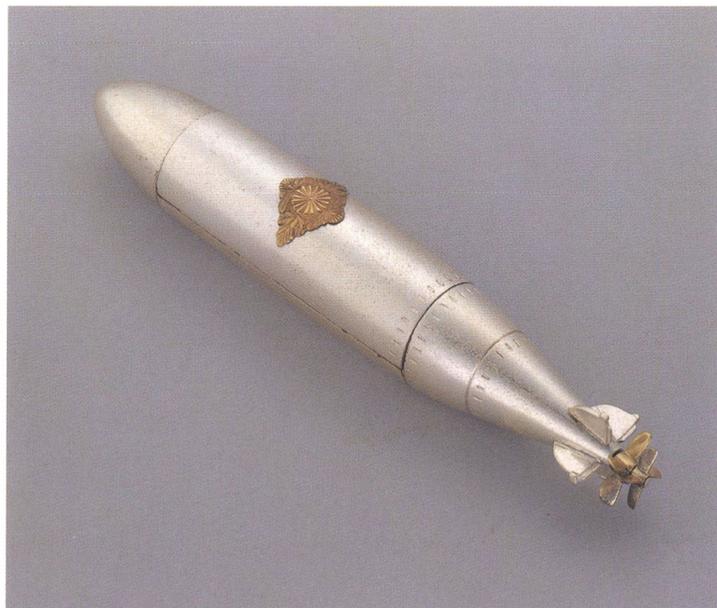
118 キャビネット形  
 昭和6年5月、朝香宮紀久子女王御結婚記念  
 6.7 × 4.5 × 7.8  
 銀製、刻印「純銀 宮本造」  
 Shape of a Cabinet  
 Commemoration of marriage of Princess Kikuko of  
 Asaka  
 silver / 1931



121 手箱形松文 [朝香宮家紋]  
 昭和13年12月22日、朝香宮孚彦王御結婚御披露(霞関離宮)  
 6.0 × 4.7 × 2.5  
 漆塗、蒔絵  
 Shape of a *Tebako* Box with Pine Design  
 Marriage announcement of Prince Takahiko of Asaka, held at  
 Kasumigaseki Palace  
 lacquer, *makie* / 1938



120 六角櫃形岩に杜若文 [御紋]  
 昭和13年12月、朝香宮孚彦王御結婚につき皇太后(貞明皇后)御主催  
 御内宴、大宮御所にて  
 5.7 × 6.5 × 3.6  
 銀製、刻印「純銀 稲葉謹製」  
 Shape of a Hexagonal Chest with Rock and Iris Design  
 Private banquet hosted by the Empress Dowager (Empress Teimei)  
 celebrating the marriage of Prince Takahiko of Asaka, held at Omiya Palace  
 silver / 1938



122 水雷形 [朝香宮家紋]

昭和10年1月26日、  
朝香宮正彦王(のち音羽正彦)成年式御祝宴(霞関離宮)  
12.7×2.0×2.2  
銀製、刻印「銀製 宮本製」

Shape of a Torpedo

Banquet celebrating the coming-of-age ceremony of Prince Tadahiko of Asaka, later Tadahiko Otowa, held at Kasumigaseki Imperial Villa silver / 1935



124 丸形藤文 [朝香宮家紋]

昭和16年10月30日、朝香宮湛子女王御結婚御送別(霞関離宮)  
径6.0 高2.5  
木製、蒔絵

Round Shape with Wisteria Design

Commemoration of departure of Princess Kiyoko of Asaka for marriage, held at Kasumigaseki Imperial Villa wood, makie / 1941



123 手箱形藤文 [音羽家紋]

昭和16年4月17日、音羽正彦御結婚御披露(華族会館)  
6.8×5.4×3.4  
漆塗、蒔絵

Shape of a *Tebako* Box with Wisteria Design

Marriage announcement of Tadahiko Otowa, held at Kazoku Kaikan lacquer, makie / 1941

# 四、昭和20年代から平成へ——伝統を受け継ぐ

Late 1940's to the Heisei Era — Succeeding the Tradition

昭和二十年（一九四五）八月に終戦を迎えて皇室にもまた新たな歴史のページが開かれるなかで、ボンボニエールの伝統は絶えることなく引き継がれている。『昭和天皇実録』には、戦後間もない、ボンボニエールを新たに作る事が困難な時期に、戦災を逃れたボンボニエールが用いられていたことが記される。昭和二十年十二月一日の条には、廃職となった元侍従武官を昭和天皇が御召しになり会食され、「宮殿焼失の折、御学問所二階から避難させた御紋章入りボンボニエールを一同に下賜される」とある。また、昭和二十三年十二月二十四日の条には、帰国を控えた極東国際軍事裁判国際検事団のキーンマン首席検事を午餐にお招きになり、この折に、米国トルーマン大統領の娘への贈り物として「銀製鳥甲形」のボンボニエールを託されたという。これもまた、戦災を逃れた品であろう。一方で、同時期には、器胎がごく薄く、デザインも簡素な銀製のボンボニエールが記念の品として製作されたほか、昭和二十五年五月の和子内親王御結婚の折、翌月二十二日に貞明皇后が催された御内宴では、桐材の六角箱に折り鶴を彩色で表した《亀甲形折鶴文》No.125が用いられている。そして戦後の復興期を経て、昭和三十四年四月の天皇皇后両陛下の御結婚の折には、二種のボンボニエールが用意された。御婚儀は四月十日に行われ、十二日の御親族との御内宴では蓋表に鶴を取り付けた《菊花形双鶴付》No.129が、十三日から十五日にかけての御祝宴の折には《丸形鴛鴦文》No.130が用意された。この《丸形鴛鴦文》については『アサヒグラフ臨時増刊皇太子御結婚記念画報』（昭和三十四年）に「ボンボン入れ」として、この製作を実際に手がけた、しろかね貴金属店（京橋）での作業の様子が製作工程写真とともに紹介されている。約一ヶ月の工期で三四〇〇個が製作されたという。通常は、鳥や雲

の部分のパーツをそれぞれ別に型打ちして器体に蝋付けするが、このボンボニエールは、プレスによって成形されて文様と器が一体化しており、蝋付けによる継ぎ目がないことが特徴である。プレスのための金型は、中野恵祥（八九九―一九七四）が彫刻を担当している。中野は金工家として東京で活動していたが、二十四歳の時に関東大震災ですべてを失い、大阪造幣局彫刻所長の飯田勝美を頼って大阪に二年間ほど在住した。この間にメダルなどのプレス加工に用いられていた金型彫刻の技術を習得したという。中野は板金を用いた先鋭的な造形の作品で知られ、日展などで金工作家として活動する一方で、若き日に習得した金型彫刻の技術を評価されてボンボニエールの製作に加わっているのである。

戦後、昭和期のボンボニエールはその多くが私的な御内宴のなかで用いられており、一度に製作された数も多くはないと考えられる。この時期のボンボニエールの材質に注目すると、銀製のほか、真鍮地に銀メッキ仕上げをしたもの、銅製で緑青仕上げをしたものなどがあり、磁器や陶器も多い。

そして昭和から平成へ御代が変わり、大札の諸行事と儀式が行われるなかでボンボニエールのあり方も昭和度の大札の時から変化が見られた。『平成大札記録』（宮内庁、平成六年）によれば、平成二年（一九九〇）十一月に行われた即位の礼に際しての賜物については、次のように定められている。十一月十二日から十五日において宮殿・豊明殿で行われた饗宴の儀は「国事行為たる儀式」とし

て行われたため、この折の参列者に配られた《丸形鳳凰文》No.158のボンボニエールは、賜物ではなく「記念品」とされた。そして、同月二十三日に行われた大嘗祭の後、二十四日および二十五日に行われた大饗の儀においては、ボンボニエールは用いられず、その参列者には、天皇陛下から竹と梅を取り合わせた挿華の賜りがあり、同年十二月三日に京都御所での茶会の折には参列者には橘と桜の花枝をあしらったボンボニエールの賜りがあった。

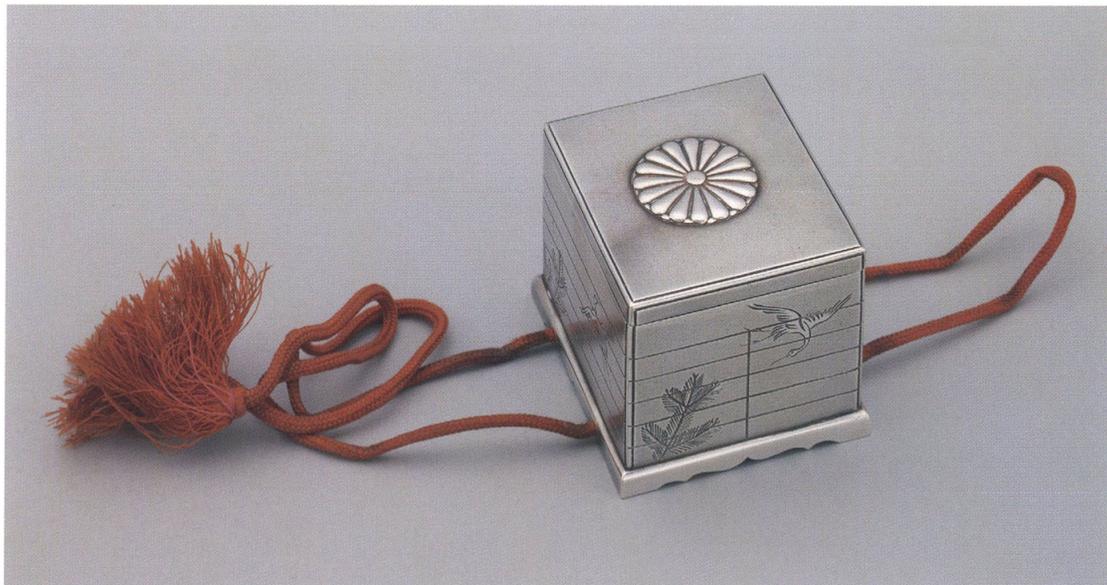
明治二十年代より皇室の洋式饗宴の記念の品として始められた小さな菓子器、ボンボニエール。およそ三〇年にわたるその歴史は、時代によって変容しながらも受け継がれてきたことを示している。これまでの調査のなかで確認できたものだけでも、皇室ゆかりのボンボニエールは優に三〇〇種を超える。今後もその魅力は様々な形で伝えられていくであろう。



125 亀甲形折鶴文

昭和25年6月22日、  
和子内親王御結婚につき皇太后（貞明皇后）御主催御内宴  
6.9×8.0×3.4  
桐、彩色

Hexagonal Shape with Folded Paper Crane Design  
Private banquet hosted by Empress Dowager (Empress Teimei)  
celebrating the marriage of Princess Kazuko  
Color on paulownia / 1950



126 重ね箱形松鶴文 [御紋]  
 昭和24年1月26日、昭和天皇御結婚25年御祝宴  
 4.9 × 4.3 × 4.2  
 銀製、刻印「純銀」  
 Shape of Stacked Boxes with Crane and Pine Design  
 Banquet celebrating the 25th wedding anniversary of  
 Emperor Showa  
 silver / 1949



128 丸形黄心樹文 [御紋]  
 昭和30年11月29日、正仁親王(常陸宮殿下)成年式御祝宴  
 径4.7 高2.9  
 銀製、刻印「純銀」  
 Round Shape with *Ogatama* (*michelia compressa*) Design  
 Banquet celebrating the coming-of-age ceremony of  
 Prince Masahito (HIH Prince Hitachi)  
 silver / 1955



127 丸形鴛鴦文 [御紋]  
 昭和27年11月11日、皇太子(天皇陛下)成年式・立太子礼御内宴  
 径4.7 高2.8  
 銀製、刻印「純銀」  
 Round Shape with Mandarin Duck Design  
 Private banquet celebrating the coming-of-age ceremony and the  
 investiture ceremony of the Crown Prince (HM the Emperor)  
 silver / 1952



130 丸形鴛鴦文 [御紋]  
 昭和34年4月13日～15日、皇太子(天皇陛下)御結婚御祝宴  
 径5.8 高2.2  
 銀製、刻印「銀製」

---

Round Shape with Mandarin Duck Design  
 Banquet celebrating the marriage of the Crown Prince  
 (HM the Emperor)  
 silver / 1959



129 菊花形双鶴付 [御紋]  
 昭和34年4月12日、皇太子(天皇陛下)御結婚御内宴  
 径6.0 高2.5  
 銀製、刻印「純銀」

---

Shape of a Chrysanthemum Flower with Pair of Cranes  
 Private banquet celebrating the marriage of the Crown Prince  
 (HM the Emperor)  
 silver / 1959



132 丸形黄心樹文 [御紋]  
 昭和39年10月2日、正仁親王(常陸宮殿下)御結婚御祝宴  
 径5.1 高2.8  
 銀製、刻印「銀製」

---

Round Shape with *Ogatama* Design  
 Banquet celebrating the marriage of Prince Masahito  
 (HIH Prince Hitachi)  
 silver / 1964



131 丸形石楠花文 [御紋]  
 昭和39年10月1日、正仁親王(常陸宮殿下)御結婚御内宴  
 径5.1 高2.8  
 銀製、刻印「銀製」

---

Round Shape with Rhododendron Design  
 Private banquet celebrating the marriage of Prince Masahito  
 (HIH Prince Hitachi)  
 silver / 1964



134 菊花形双鶴若杉桐文 [御紋]  
 昭和41年11月9日、  
 三笠宮御結婚25年につき昭和天皇・香淳皇后御主催御内宴  
 径4.9 高2.1  
 銀製、刻印「銀製 三宅製」  
 Shape of a Chrysanthemum Flower with a Pair of Cranes, Young  
 Cedar and Paulownia Design  
 Private banquet hosted by Emperor Showa and Empress Kojun  
 celebrating the 25th wedding anniversary of Prince Mikasa  
 silver / 1966



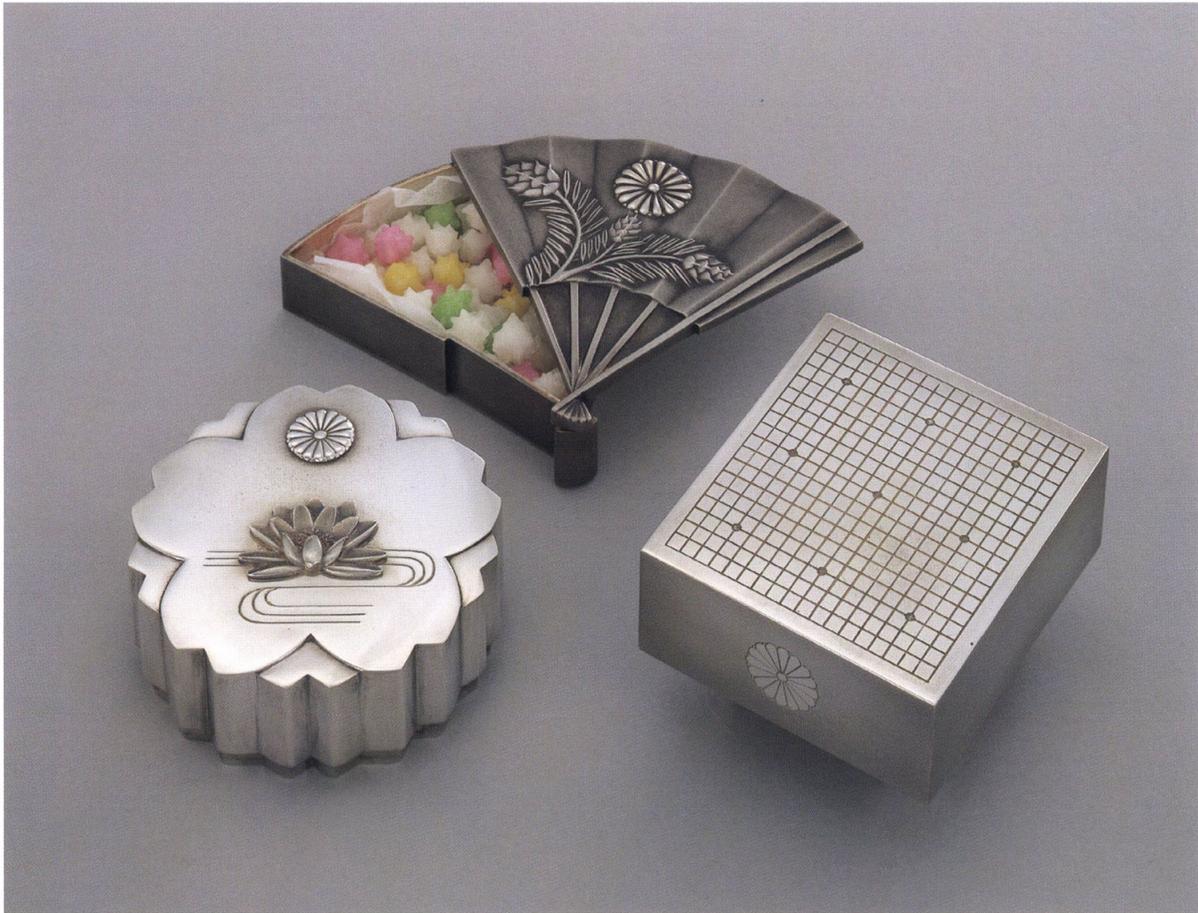
133 菊花形双鶴梅撫子文 [御紋]  
 昭和30年2月11日、高松宮御結婚25年につき昭和天皇・香淳皇后  
 御主催御内宴  
 径4.9 高2.2  
 銀製、刻印「銀製」  
 Shape of a Chrysanthemum Flower with a Pair of Cranes, *Ume*  
 Blossom and Fringed Pink Design  
 Private banquet hosted by Emperor Showa and Empress Kojun  
 celebrating the 25th wedding anniversary of Prince Takamatsu  
 silver / 1955



136 丸形瑞鳥文  
 昭和43年10月31日、新宮殿落成記念  
 径5.8 高3.3  
 銅製  
 Round Shape with Auspicious Bird Design  
 Commemoration of the completion of the new Palace  
 copper / 1968



135 丸形雉文 [御紋]  
 昭和36年12月17日、吹上御所御移転記念御祝宴  
 径5.8 高2.2  
 銀製、刻印「銀製」  
 Round Shape with Pheasant Design  
 Banquet commemorating the Emperor's move to the Fukiage  
 Palace  
 silver / 1961



138 扇形桐文 [御紋]

昭和45年10月18日、文仁親王(秋篠宮殿下)着袴の儀御内宴  
5.7 × 6.4 × 1.4  
銀製、刻印「銀製」

Shape of a Fan with Hemlock Design  
Private banquet celebrating the *chakko-no-gi* of Prince Fumihito  
(HIH Prince Akishino)  
silver / 1970

139 花形未草文 [御紋]

昭和48年12月17日、清子内親王着袴の儀御内宴  
径5.7 高2.2  
銀製、刻印「銀製」

Shape of a Flower with Pygmy Water Lily Design  
Private banquet celebrating the *chakko-no-gi* of  
Princess Sayako  
silver / 1973

137 碁盤形 [御紋]

昭和39年11月4日、徳仁親王(皇太子殿下)着袴の儀御内宴  
4.3 × 5.0 × 3.1  
銀製、刻印「銀製」

Shape of a Go Game Board  
Private banquet celebrating the *chakko-no-gi* of Prince Naruhito  
(HIH the Crown Prince)  
silver / 1964



140 扇形粹文 [御紋]  
 昭和55年2月25日、徳仁親王(皇太子殿下)成年式御祝宴  
 6.5 × 5.7 × 1.4  
 銀製、刻印「銀製」  
 Shape of a Fan with Japanese Cherry Birch Design  
 Celebration of coming-of-age ceremony of Prince Naruhito  
 (HIH the Crown Prince)  
 silver / 1980



142 扇形未草文 [御紋]  
 平成2年3月12日、清子内親王成年式御祝宴  
 3.7 × 6.8 × 1.6  
 銀製、刻印「銀製」  
 Shape of a Fan with Pygmy Water Lily Design  
 Celebration of coming-of-age ceremony of Princess Sayako  
 silver / 1990



141 丸形梅文 [御紋]  
 昭和60年12月3日、文仁親王(秋篠宮殿下)成年式御祝宴  
 径5.6 高3.3  
 銀製、刻印「銀製」  
 Round Shape with Hemlock Design  
 Celebration of coming-of-age ceremony of Prince Fumihito  
 (HIH Prince Akishino)  
 silver / 1985



144 丸形北米地図入 [御紋]  
 昭和50年12月20日、昭和天皇米国御訪問記念  
 径5.5 高3.2  
 銀製、刻印「銀製」

---

Round Shape with Map of North America  
 Commemoration of Emperor Showa's visit to the  
 United States of America  
 silver / 1975



143 丸形西欧地図入 [御紋]  
 昭和46年、昭和天皇御訪欧記念  
 径6.0 高4.7  
 銀製、刻印「銀製」

---

Round Shape with Map of Western Europe  
 Commemoration of Emperor Showa's visit to Europe  
 silver / 1971



146 丸形桃枝文 [御紋]  
 昭和48年3月9日、香淳皇后古希御祝御記念茶会  
 径6.0 高2.2  
 銀製、刻印「銀製」

---

Round Shape with Peach Branch Design  
 Tea ceremony to commemorate the 70th birthday of  
 Empress Kojun  
 silver / 1973



145 丸形竹文 [御紋]  
 昭和46年5月9日、昭和天皇古希御祝御記念茶会  
 径5.8 高2.3  
 銀製、刻印「銀製」

---

Round Shape with Bamboo Design  
 Tea ceremony to commemorate the 70th birthday of  
 Emperor Showa  
 silver / 1971



148 丸形御紋付 [御紋]  
昭和51年11月10日、昭和天皇御即位50年記念  
径6.0 高3.3  
銀製、刻印「銀製」

Round Shape with the Imperial Crest  
Commemoration of the 50th anniversary of  
Emperor Showa's enthronement  
silver / 1976



147 丸形若竹桃文 [御紋]  
昭和49年1月26日、昭和天皇御結婚50年御内宴  
径5.4 高3.2  
銀製、刻印「銀製」

Round Shape with Young Bamboo and Peach Design  
Private banquet celebrating the 50th wedding anniversary of  
Emperor Showa  
silver / 1974



150 丸形桃文 [御紋]  
昭和58年4月17日、香淳皇后八十賀御内宴  
径6.0 高3.2  
銀製、刻印「銀製」

Round Shape with Peach Design  
Private banquet celebrating the 80th birthday of  
Empress Kojun  
silver / 1983

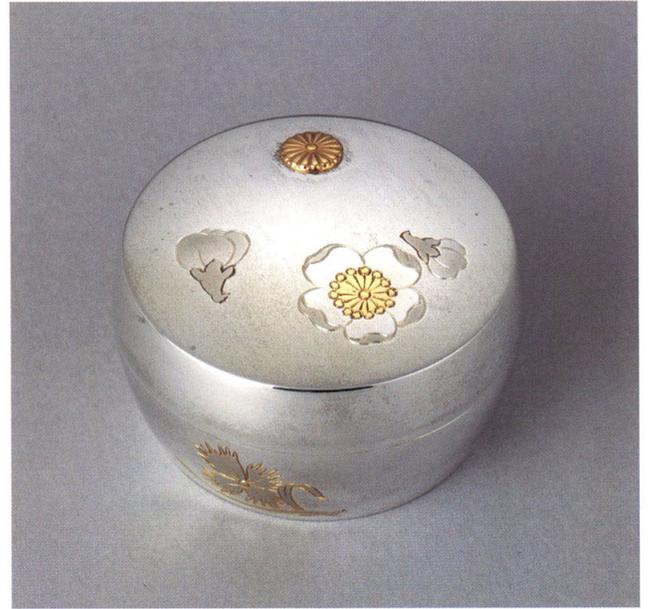


149 丸形竹に鳩文 [御紋]  
昭和56年5月30日、昭和天皇八十賀御内宴  
径6.0 高3.2  
銀製、刻印「銀製」

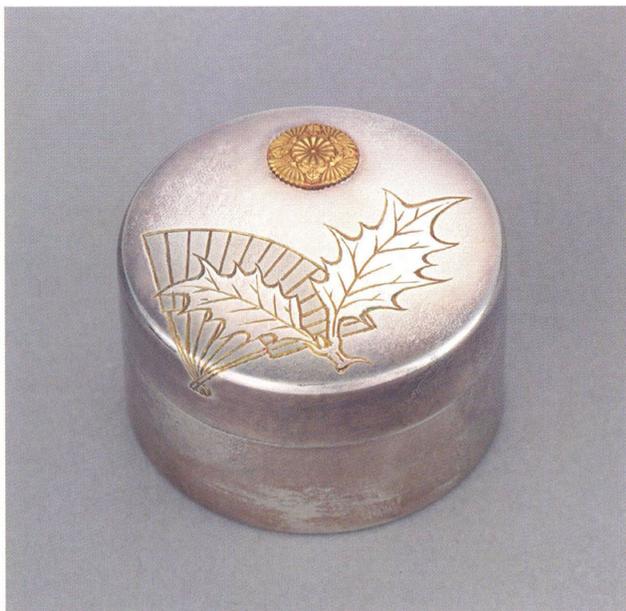
Round Shape with Bamboo and Pigeon Design  
Private banquet celebrating the 80th birthday of  
Emperor Showa  
silver / 1981



152 丸形栢に花桃文 [三笠宮家紋]  
 昭和55年11月8日、寛仁親王(三笠宮)御結婚御披露(開東閣)  
 径7.1 高4.7  
 磁器、染付銘(香蘭社)  
 Round Shape with Oak and Peach Blossom Design  
 Marriage announcement of Prince Tomohito of Mikasa, held at  
 Kaitokaku  
 porcelain / 1980



151 丸形若梅に撫子文 [御紋]  
 昭和55年2月19日、高松宮御結婚50年につき昭和天皇・香淳皇后  
 御主催御内宴  
 径6.0 高3.3  
 銀製、刻印「銀製」  
 Round Shape with Young *Ume* Blossom and Fringed Pink Design  
 Private banquet hosted by Emperor Showa and Empress Kojun celebrating  
 the 50th wedding anniversary of Prince Takamatsu  
 silver / 1980



154 丸形柊に扇文 [三笠宮家紋]  
 昭和59年12月8日、憲仁親王(高門宮)御結婚御披露(開東閣)  
 径5.1 高3.1  
 銀製、刻印「銀製」  
 Round Shape with Holly and Fan Design  
 Marriage announcement of Prince Norihito (Prince Takamado), held  
 at Kaitokaku  
 silver / 1984



153 菊花形  
 昭和61年9月10日、秩父宮勢津子妃喜寿記念  
 径6.9 高3.1  
 陶器、印銘(三峰窯)  
 Shape of a Chrysanthemum Flower  
 Commemoration of the 77th birthday of Princess Setsuko  
 (Princess Chichibu)  
 earthenware / 1986



155 丸形桜に榮印 蓋裏に白樺文  
 昭和59年4月10日、皇太子同妃(天皇皇后両陛下) 御結婚25年御記念  
 径6.0 高3.5  
 銀製、刻印「銀製」

Round Shape with Cherry Blossom Design and Seal of the Character "Ei"  
 Commemoration of the 25th wedding anniversary of the Crown Prince and  
 Princess (TM the Emperor and Empress)  
 silver / 1984



157 丸形若杉に桐文 [御紋]  
 平成3年11月12日、  
 三笠宮御結婚50年につき天皇皇后両陛下御主催御内宴  
 径6.0 高3.5  
 銀製、刻印「銀製」

Round Shape with Young Cedar and Paulownia Design  
 Private banquet hosted by TM the Emperor and Empress celebrating  
 the 50th wedding anniversary of Prince Mikasa  
 silver / 1991



156 丸形若杉に桐文 [三笠宮家紋]  
 平成3年10月22日、三笠宮御結婚50年御記念  
 径7.3 高2.9  
 磁器、染付銘(深川製磁)

Round Shape with Young Cedar and Paulownia Design  
 Commemoration of the 50th wedding anniversary of  
 Prince Mikasa  
 porcelain / 1991



159 丸形鴛鴦文 [御紋]  
 平成3年2月23日、立太子の礼御祝宴  
 径6.8 高2.7  
 銀製、刻印「銀製」

Round Shape with Mandarin Duck Design  
 Banquet celebrating the investiture ceremony of HIH the Crown Prince  
 silver / 1991



158 丸形鳳凰文 [御紋]  
 平成2年11月12日、天皇陛下御即位記念  
 径6.0 高3.4  
 銀製、刻印「銀製」

Round Shape with Phoenix Design  
 Commemoration of enthronement of HM the Emperor  
 silver / 1990



161 丸形梅檜扇菖蒲文 [御紋]  
 平成2年6月30日、秋篠宮殿下御結婚御祝宴  
 径5.7 高3.3  
 銀製、刻印「銀製」

Round Shape with Hemlock and Arctic Iris Design  
 Banquet celebrating the marriage of HIH Prince Akishino  
 silver / 1990



160 地球形 [御紋]  
 平成3年12月9日、天皇皇后両陛下外国御訪問記念  
 径4.9 高4.8  
 銀製、刻印「銀製」

Shape of the Earth  
 Commemoration of TM the Emperor and Empress's visit  
 to foreign countries  
 silver / 1991



163 丸形鴛鴦文 [御紋]

平成5年6月15日、皇太子殿下御結婚御祝宴  
径5.8 高2.3  
銀製、刻印「銀製」

Round Shape with Mandarin Duck Design  
Banquet celebrating the marriage of HIH the Crown Prince  
silver / 1993



162 丸形松鶴文 [御紋]

平成5年6月11日、皇太子殿下御結婚御内宴  
径5.8 高2.4  
銀製、刻印「銀製」

Round Shape with Pine and Crane Design  
Private banquet celebrating the marriage of  
HIH the Crown Prince  
silver / 1993



164 八稜鏡形桐文 [御紋]

平成16年3月14日、天皇陛下古希御祝宴  
径6.0 高2.8  
銀製、刻印「銀製」

Shape of an Eight Lobed Mirror with Paulownia  
Design  
Banquet celebrating the 70th birthday of HM the Emperor  
silver / 2004

165 八稜鏡形白樺文 [御紋]

平成16年10月20日、皇后陛下古希御祝宴  
径6.0 高2.9  
銀製、刻印「銀製」

Shape of an Eight Lobed Mirror with White Birch  
Design  
Banquet celebrating the 70th birthday of HM the Empress  
silver / 2004

○書籍等

- 『風俗画報』第七十一号、東陽堂、明治二十七年（一八九四）  
宮内庁『明治天皇紀』吉川弘文館、昭和四十三年（一九六八）七五  
宮内庁『昭和天皇実録』東京書籍、平成二十七年（二〇一五）一七  
財団法人秩父宮記念会『雍仁親王実紀』吉川弘文館、昭和四十七年（一九七二）  
『宣仁親王略御年譜』平成初期  
秩父宮妃勢津子『銀のボンボニエール』主婦の友社、平成三年（一九九一）  
扇子忠『皇室の饗宴とボンボニエール』思文閣出版、平成十七年（二〇〇五）  
扇子忠監修『皇室のボンボニエール』阿部出版、平成二十一年（二〇〇九）  
松平乗昌編『図説宮中晩餐会』河出書房新社、平成二十四年（二〇一二）  
長佐古美奈子『ボンボニエールと近代皇室文化 掌上の雅』えにし書房、平成二十七年（二〇一五）

○展覧会図録

- 『慶びの小箱 ボンボニエールの意匠美』宮内庁三の丸尚蔵館、平成十二年（二〇〇〇）  
『若松と菊——旧秩父宮家いつくしみの品々』宮内庁三の丸尚蔵館、平成十六年（二〇〇四）  
『若梅に撫子——旧高松宮家と伝来の品々』宮内庁三の丸尚蔵館、平成二十五年（二〇一三）  
『銀細工の小箱 ボンボニエール』福井市立郷土歴史博物館展示解説シート33、平成二十年（二〇〇八）  
『日本美術協会創立一二五年 有栖川宮・高松宮ゆかりの名品』上野の森美術館、平成二十五年（二〇一三）

○論文

- 長佐古美奈子「ボンボニエールを読み解く——歴史資料としての視点から——」『学習院大学史料館紀要』第二十一号、平成二十七年（二〇一五）  
五味聖「ボンボニエール再考」『宮内庁三の丸尚蔵館年報・紀要』第六号、平成十三年（二〇〇一）  
同右「近代の皇室とボンボニエール」『宮内庁三の丸尚蔵館年報・紀要』第二十号、平成二十七年（二〇一五）

## 謝辞

本展の開催にあたり左記の各氏に調査等のご協力をいただきました。  
ここに記して深く感謝の意を表します。

岩壁義光、長佐古美奈子、鹿毛幹夫

(順不同、敬称略)

## 皇室とボンボニエール―その歴史をたどる

三の丸尚蔵館展覧会図録No.77

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十九年七月十五日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 皇室とボンボニエール―その歴史をたどる

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 77

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社 東京美術  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
平成二十九年七月十五日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonaru Shōzōkan

# The Imperial Family and Bonbonnières

— Tracing Their History

July 15 (Sat.) — September 10 (Sun.), 2017



## Foreword

Facing the new Meiji era, our country accomplished a great transformation into a modern nation, and the Imperial Family held various ceremonies and events in new styles after acquiring foreign systems and cultures. Within these events, small confectionary boxes called bonbonnières, became one of the gifts for guests at banquets, since the late 1880's. These lovely small boxes which fit in one's palm, were designed suit for felicitation, and have been passed down to the present day as souvenirs of auspicious events of the Imperial Family.

Because our museum collection includes a number of bonbonnières among the bequest items from the late Prince Chichibu family in 1996, we held an exhibition titled "Celebratory Miniature Boxes: The Decorative Beauty of the Bonbonnière", in the spring of 2000, where they received much attention. After this, many bonbonnières were included in the items bequeathed by the late Prince Takamatsu family in 2005, and much has become clear about these bonbonnières of the Imperial family in the modern era, through several investigations on these acquisitions.

In this exhibition, based on the results of our investigations, we will trace the history of these bonbonnières focusing on their backgrounds. They were used not only for auspicious Imperial events such as enthronements and weddings, but also for various occasions such as receptions of distinguished foreign guests. Furthermore, we will introduce their features in each period which can be perceived from the meanings of their shapes and patterns, or their manufacturers and materials.

We hope our visitors will also direct their attentions towards the rich foundation of craft techniques which supported their production, along with the profundity of bonbonnière history, elaborating designs making the most of their materials such as silver, lacquer, ceramics, etc.

July, 2017

The Museum of the Imperial Collections,  
Sannomaru Shōzōkan